

R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
B-001	表紙・図面リスト	B-021	防水層詳細図 2	S-001	基礎伏図、基礎・雑配筋図	E-01	電気工事 特記仕様書
B-002	特記仕様書 1	B-022	展開図	S-002	基礎柱リスト、柱脚詳細図	E-02	電気工事 配置図
B-003	特記仕様書 2	B-023	1・2階天井伏図	S-003	1・2階柱伏図、鉄骨部材リスト	E-03	電灯設備 平面図
B-004	特記仕様書 3	B-024	建具配置図、建具表	S-004	2階梁伏図、小屋伏図、その他梁伏図	E-04	コンセント設備 動力設備 平面図
B-005	特記仕様書 4	B-025	走行クレーン詳細図	S-005	軸組図 1	E-05	防災設備 平面図
B-006	特記仕様書 5	B-026	外構現況図・撤去図、外構平面図	S-006	軸組図 2、階段架構図		
B-007	特記仕様書 6	B-027	外構詳細図	S-007	鉄骨架構図 1		
B-008	全体配置図、付近見取図			S-008	鉄骨架構図 2	W-01	管工事 特記仕様書
B-009	配置図			S-009	鉄骨架構図 3	W-02	管工事 配置図
B-010	仕上表、面積表			S-010	鉄骨架構図 4	W-03	管工事 平面図
B-011	1・2階平面図、屋根伏図			S-011	ジャストベース標準図		
B-012	立面図			S-012	合成スラブデッキプレート標準図		
B-013	矩計図 1			S-013	P柱アンカーボルト標準図	C-01	空調工事 特記仕様書
B-014	矩計図 2			S-014	鉄骨構造基準図7-1	C-02	空調工事 平面図
B-015	断面詳細図			S-015	鉄骨構造基準図7-2		
B-016	平面詳細図			S-016	鉄骨構造基準図7-3		
B-017	手摺詳細図			S-017	鉄骨構造基準図7-4		
B-018	部分詳細図 1			S-018	鉄骨構造基準図7-5		
B-019	部分詳細図 2			S-019	鉄骨構造基準図7-6		
B-020	防水層詳細図 1			S-020	鉄骨構造基準図7-7		

所 長	次 長	課長補佐	係 長	係 長	課 員	担 当

徳島県企業局	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	工事名	図面番号	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川端社一 部
		図面名	縮尺	
		表紙・図面リスト	B-001	

5. 工事用水、電力等
- ◎既存電力利用（出来る・**出来ない**）、電力料金（**有償**・無償）ただし、施設管理者と協議すること。
 - ◎既存水利用（出来る・**出来ない**）、水料金（**有償**・無償）ただし、施設管理者と協議すること。

6. 工事車両駐車場
資材置場
現場事務所用地等
- ◎同用地は、**図示の場所**に、用意していないので業者にて）設けること。ただし、施設管理者と協議すること。

7. 仮設トイレの様式化
- ◎受注者は当初請負対象金額（設計金額）1千万円以上7千万円未満の工事において、仮設トイレを設置する場合、原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。
 - ◎受注者は当初請負対象金額（設計金額）1千万円以上7千万円未満の工事において、現場代理人または主任技術者が女性的の場合、設置する仮設トイレは、「快通トイレ」を標準とする。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。
 - ◎受注者は、当初請負対象金額（設計金額）7千万円以上の工事において仮設トイレを設置する場合、原則として「快通トイレ」を設置しなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。
 - ◎受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。

○洋式トイレとは、和式トイレの便座部分を洋式化したトイレのこと。
○快通トイレとは、洋式トイレのうち、防臭対策・施設強化などが実施された、女性が利用しやすい仮設トイレのこと。

3章 土工

1. 掘切
- ◎周辺の状況、土質、地下水の状態等に適した工法を採用し、工事中の異常沈下、法面の滑動、その他による災害が発生しないよう、災害防止に必要な措置をすること。
 - ◎敷地内に埋設が予想される設備配管類等について十分調査し支障がないようにすること。
 - ◎掘切り際は、地盤をかみ乱さないよう、手作業（深さ30程度）とするか、バケットに特殊アタッチメントを取りつけた機械掘りとする。なお、かく乱した場合は、自然地盤と同層以上の強度となるように適切な措置を定め、監督職員の承諾を受ける。

2. 排水
- ◎工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。

3. 埋め戻し
及び盛土
- ◎使用土は（A種、**B種**、C種、D種）とし、機器により締め固める。
 - ◎建設発生土を搬入する場合には、土壌検査結果を添付するものとし、「徳島県生活環境保全条例」の土壌基準に適合しないものについては、搬入することができない。ただし、次の場合は検査結果の添付の必要はない。
 - 1) 公共工事利用の場合で、監督員相互で同意がとれた場合
 - 2) 購入土（切込砕石、砂、真砂土等）である場合
 - ◎余盛りは、土質に依り監督員と協議の上、余盛り高さを決定すること。
 - ◎建設発生土を搬入する場合には、土壌検査結果を添付するものとし、「徳島県生活環境保全条例」の土壌基準に適合しないものについては、搬入することができない。ただし、次の場合は検査結果の添付の必要はない。
 - (1) 公共工事間利用の場合で、監督員相互で同意がとれた場合
 - (2) 購入土（切込砕石、砂、真砂土等）である場合

4. 地均し
- ◎建物の周囲、幅2m程度を、水はけよく地均しを行う。
 - ◎地均しは、均しを行う地表面の不陸を修正し、草木の除去及び清掃をして、一様にかき均した後、仕上げ面を一様になじみ起こしをして、良質土をまきかけ、歩行に耐える程度に締め固める。

5. 建設発生土の処理
- ◎場外搬出適正処分とする。
民間の雑土処分場等へ搬出する場合は「徳島県生活環境保全条例」によることとし、建設発生土の発生場所ごとに、かつ4,000立方メートルまでごとに1回採取して、土壌検査を行うこととする。その他、「特定事業の許可に係る土壌検査及び水質検査の実施における留意点」による。
ただし、建設発生土の公共工事間の利用を行う場合で、担当者相互の同意が取れた場合には、分析の必要はない。
 - ◎土壌検査を行った結果、条例の基準に適合しない場合には、監督員と協議すること。
 - ◎処分場として下記のとおり指定する。

処分許可業者の会社名	所在地 処分地	運搬距離 (km)	処理費 (円) (税抜き)	単位
松浦開発興業(株) ☆優良認定業者	徳島県板野郡板野町大寺字岡ノ前155番地の3 鳴門市撫養町木津字イケヤ倉1449-1	6.5	2,700	m3

6. 建設発生汚泥の処理
- ◎処分場として下記のとおり指定する。

処分許可業者の会社名	所在地 処分地	運搬距離 (km)	処理費 (円) (税抜き)	単位
宮崎基礎建設(株) ☆優良認定業者	鳴門市大麻町三俣字津久田1番地1 鳴門市大麻町三俣字津久田4-1他	3.9	11,000	t

- ◎発生汚泥を再生利用する場合には、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」に準拠し、その内容等を明記した施工計画書を監督員に提出し、承認を受けた後に施工すること。また、施工計画書の承認を受ける際には、関係部局との協議に協力すること。

6. 山留め
- ◎法面施工の場合（**素掘り**・多段式）

4章 地業工事

1. 一般事項
- ◎排水、排土等は産業廃棄物に該当するため、関係法令に基づき、適正に処理すること。

2. 砂利・砂及び
捨コンクリート
地業等

- ◎材料及、市場品とする。
- ◎砂利及び砂地業
 - ・厚さが300mmを超える場合は、300mmごとに締めめを行う。
 - ・砂利は、（切込砂利・**図示指定**）**図示方法**とする。

種別	使用部位	厚さ	粒度範囲
切込砕石	地中梁下、土間スラブ下	図面参照	C30
再生ケレン材	外構	図面参照	RC30
再生ケレン材	777t舗装	図面参照	RC40

- ・締めめは、ランナー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締めめによる凹凸は目つぶし砂利で上均しをする。
- ◎締めめ機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。
- ◎捨コンクリートは、無筋コンクリート（スラブ15・、設計基準強度18N/mm²）とし、厚さは、50mmとする。
- ◎床下防潮層は、ネリレン材厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。
- ◎防潮層の位置は、土間コンの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。

5章 鉄筋工事

1. 材料

規格番号	規格名称	種類の記号	径(mm)
JIS G 3112	鉄筋30kgf用棒鋼	SD295A	10、13、16
JIS G 3112	鉄筋30kgf用種鋼	SD345	19以上
JIS G 3551	溶接金網及び鉄筋格子		網目の形状：格子 寸法：50×50 径：3.2φ 網目の形状：格子 寸法：100×100 径：D6

2. 材料試験
- ◎材料試験は行わない。ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること

3. 加工及び
結立

- ◎鉄筋の継手は、**（素継手、D19以上はガス圧接継手、機械式継手、溶接継手）**とする。但し、スラブの打継補強筋のD19は重ね継手とする。
- ◎鉄筋の継手位置は図示による。
- ◎結束線の端部は内側に折り曲げる。
- ◎柱・梁の主筋は、ガス圧接継手とする。
- ◎先組み工法の柱・梁の主筋の継手は同一箇所としてもよい。
- ◎スラブのスペーサーは鋼製を原則とし、他の箇所についても材質等について監督員の承諾を得ること。また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。ただし、地盤を有しない階土階を除く。
- ◎鉄筋の90°未満の折曲りの内径直径は図示による。
- ◎鉄筋の定着方法及び長さは図示による。

4. 鉄筋のかぶり
厚さ及び間隔

- ◎柱・梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値を標準とする。
- ◎目地がある場合のかぶりは、目地底からの寸法とする。
- ◎杭基礎の場合のかぶりの厚さは、杭先端からとする。
- ◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図1節「基礎及び基礎梁の配筋」～7節「梁貫通孔その他配筋」による。

5. 帯筋
- ◎形の種別は構造図による。

6. 梁貫通孔補強

- ◎補強形式 鉄筋コンクリート構造基礎筋による。
- ◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。

7. ガス圧接

- ◎圧接技量資格者は、工事に相応したJIS 2 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)による技量を有する者とする。
- ◎検査は、外観検査及び引張試験、**超音波探傷試験**による。
- ◎切取り部分の継手は次のとおりとする。 ※重ね継手とする場合は監督員の承諾を受けること。また鉄筋相互間の間隔に留意すること。
・柱・梁の主筋(D19以上)：圧接 ・左記以外：（圧接 ・重ね継手）

8. 配筋検査
- ◎主要な配筋は、コンクリート打ち込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。

6章 コンクリート工事

1. 一般事項

◎設計基準強度

30kgfの種別	設計基準強度F ₀ (N/mm ²)	調合管理強度F _n (N/mm ²)	スラブ (cm)	強度試験 の有無	種別	気乾単位 容積重量(t/m ³)	適用箇所
普通	21	21+(3-6)	15	有	・類	2.3t/m ³ 程度	基礎く体、土間スラブ
普通	21	21+(3-6)	18	有	・類	2.3t/m ³ 程度	上部く体(腰壁、デッキプレート上)
普通	18	18	15	無	・類	2.3t/m ³ 程度	捨て、外構
普通	18	18	18	無	・類	2.3t/m ³ 程度	外構のコンクリート舗装層70部

- ◎構体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度（F₀）に構造体強度補正値（S）を加えた値とする。なお、構造体強度補正値（S）は、標仕表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。
- ◎コンクリートの強度試験
コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。
・第4週強度確認
原則、公共試験機関にて、主任技術者又は現場代理人立会いの上、行うこと。ただし、公共試験機関以外で行う場合は、工事監督者又は監督員立会いの上、行うこととする。なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。

2. コンクリートの
仕上がり

- ◎コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容偏差は、標仕表6.2.3による。
- ◎合板せき板を用いる打ち出し仕上げの種類は、**（A）**、**（B）**、**（C）** 種とする。
- ◎コンクリートの仕上げりの平坦さは、標仕表6.2.5による。

3. 普通
コンクリート

- ◎セメントの種類は、**（普通ポルトランドセメント）** 混合セメントA種・高炉セメントB種・フライアッシュセメントB種）とする。
- ◎骨材は、標仕6.3.1(b)による。
- ◎細骨材としてフェロニッケルスラグを使用（できる、**できない**）。
- ◎細骨材に含まれる塩化量は、NaCl換算で0.04%以下とする。
- ◎コンクリート中の塩化物量は、0.30kg/m³以下とし、試験方法は標仕6.5.4による。
- ◎試験しは（行う**行わない**）
- ◎所要空気量は4.5%±1.5%とする。
- ◎受注者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとらなければならない。
 - 1) コンクリート中のアルカリ総量の抑制
アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート1m³に含まれるアルカリ総量をNa₂O換算で3.0kg以下にする。
 - 2) 抑制効果のある混合セメント等の使用
JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント〔B種またはC種〕あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント〔B種またはC種〕、もしくは混和材をポルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。
 - 3) 安全と認められる骨材の使用
骨材のアルカリシリカ反応性試験（化学法またはモルタルバー法）の結果で無害と確認された骨材を使用する。
試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（化学法）またはJIS A 5308（レディミクストコンクリート）の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（化学法）」、JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（モルタルバー法）またはJIS A 5308（レディミクストコンクリート）の付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法（モルタルバー法）」による。
- ◎混和材料を使用する場合の種類は標仕6.3.1(d)によることとし、監督員の承諾を受けること。
- ◎コンクリートの打継ぎ目地の位置、形状及び寸法、図面による。

4. レディミクスト
コンクリート工場の選定

- ◎工事開始に先立ち、工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。

5. 型枠

- ◎型枠は、（県産木製型枠・**合板**）金属製・樹脂製・打込み型枠・ブロック）とする。

型枠の種類	仕上げ種別	塗装の有無	材質	厚さ	適用箇所
標仕6.8.3(b)(1)に準じる 標仕6.8.3(b)(2)に準じる 県産木製型枠	A種程度 普通型枠程度	なし なし	材質 合板	12mm 12mm	打放し仕上げ部 上記以外 基礎梁の地中埋設部、側溝、ため枳

- ◎スリーブの材質（標仕6.8.3(i)による）。
- ◎打ち出し仕上げの打ち増し厚さは図示による。
- ◎誘発目地の位置、形状及び寸法は図示による。

	徳島県企業局		工事名 R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-004	株式会社 川建設	1級建築士登録 第126265号 川端壮一郎
			図面名 特記仕様書 3	縮尺		

6. 無筋 コンクリート
- ◎無筋コンクリートは、次の場合に適用する。
 - ・捨コンクリート
 - ・補強筋を必要としないコンクリート
 - ◎設計基準強度 (18) N/mm²、スランプ (15) cm
 - ◎適用箇所：捨てコン

- 7章 鉄骨工事
1. 一般事項
- ◎製作工場は、国土交通大臣の認定による (R) グレード工場とし、その証明となる資料を監督職員に提出する。
 - ◎鉄骨製作工場には施工管理技術者を (置) 置かなくともよい
 - ◎工事現場には、鉄骨製作工場名等を記載した板 (30×35×45cm) (H.4.9.30住指発第347号) を掲示すること。

2. 材料
- ◎鋼材は次による。

種類の記号	規格番号・規格名称等	適用箇所
BR295	建築構造用冷間成形角型鋼管	柱
STR400	JIS G3466 一般構造用冷間成形角型鋼管	コナ柱、窓廻り上下部材、シャッター上部、庇受材
SS400	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	間柱、大梁・小梁、小梁・間柱に取合うPL類
SN490C	JIS G3136 一般構造用圧延鋼材	通しダイヤフラムPL、G35線部PL
SN490B	JIS G3136 建築構造用圧延鋼材	内蔵ダイヤフラムPL
SSC400	JIS G3350 一般構造用軽量形鋼	胴縁、折版受け、その他

- ◎高力ボルトは、トルシア形高力ボルトとする。径、使用箇所は図示による。

規格番号等	規格名称等	セットの種類
建築基準法に基づき指定又は認定	トルシア形高力ボルト	2種 (S107)

- ◎普通ボルト及びナットの材質は、(JIS付属品 (JIS B 1180及びJIS B 1181)・JIS本体規格品 (ISO規格)) とする。径、使用箇所は図示による。
- ◎間柱用構造用アンカーボルトの材質は (SN490B) とする。
- ◎溶接材料は、母材の種類、寸法及び溶接条件に相当したもので、製作工場の通常使用のものとする。
- ◎ターナバックル 鋼の種類 (筋絡型・パイプ式) ボルトの種類 (羽子板ボルト) ・両ねじボルト ・ アイボルト)
ねじの呼び及びターナバックルの呼び長さは、は図示による。
- ◎合成スラブデッキプレート 材質 (S D P 1 T G , S D P 2 G) 形状及び寸法は図示による。めっきはZ-12とする。形状及び寸法は図示による。
- ◎柱底均しモルタルは無収縮モルタルとする。
・セメントは、JIS R 5210による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
・混和材は、セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファレート等) によって膨張する性質を利用するものとする。
・砂、配合比等は、製造所の仕様による。
・無収縮モルタルの品質及び試験方法は、仕様表7.2.6による。

3. 材料試験等
- ◎JIS規格品は、材料試験を行わない。
ただし、規格証明書を提出し承諾を受けること。
 - ◎トルシア形高力ボルトは、製品に対する製造管理方法及び品質管理試験の結果を、監督員に提出し承諾を受けること。
 - ◎板厚方向の引張試験を (行う) 行わない) 。

4. 作業一般
- ◎高力ボルト及び普通ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等は図示による。
 - ◎床書き現寸図は作成 (する) 行わない) 。
 - ◎鉄骨の製作精度は、標準仕様書7.3.3及びH12建告第1464号第二号イによる。
H12建告第1464号第二号イ (1) (2) のただし、書きによる補強は、「突き合わせ継手の食い違いのずれの検査・補強マニュアル」による。
 - ◎仮設のための、鉄骨に補助材等を取り付け及び貫通孔等を設ける場合は、工場溶接を原則とし、現場溶接となる場合は監督員の承諾を得ること。
 - ◎仮組を (実施する) 実施しない) 。
 - ◎原則として本接合ボルトを仮ボルトとして使用しないこと。

5. 高力ボルト接合
- ◎すべり係数試験は (行う) 行わない) 。
 - ◎オッドパス又はゲリッパシにより摩擦面の表面粗度を 5 0 μ m R a 以上確保する場合の表面粗度の確認方法は次のいずれかによる。
1) 表面粗度測定機による測定
2) フォトリソグラフィによる確認
3) 17 フォトリソグラフィ販売元からの表面粗度検査結果証明書による確認
上記の方法により確認できない場合は、すべり係数試験 (サンプル試験) を行い、すべり係数値 0.45 以上を確認すること。
 - ◎確認試験の数量は、呼び径ごとに代表ロットを選び、その中から任意に取出した5セットとする。
 - ◎トルシア形高力ボルトは、軸力の確認試験を (行う) 行わない) 。
 - ◎轉付け施工法の確認は、J A S S 6 6 . 3 (轉付け施工法の確認) に準じる。

6. 普通ボルト接合
- ◎普通ボルトの戻止めは (二重ナット) ・ナットの溶接 ・ゆるみ防止用特殊ナット) による。
ただし母屋、胴縁類の取付用ボルトは、戻止めを省略する。

7. 溶接接合
- ◎溶接作業は、工場作業を原則とする
ただし、やむを得ない場合は監督員の承諾を得ること。
 - ◎溶接技能者に対して、技量付加試験を (行う) 行わない) 。
 - ◎開先の形状は、構造図による。
 - ◎溶接部の余盛り高さは、J A S S 6 付則 6 (鉄骨精度検査基準) 付表 3 (溶接) による。
 - ◎スカラップの形状は、図示による。
 - ◎エンドタプの切除は (行う) 行わない) 。行う場合は図示による。
 - ◎エンドタプ、表当て金等は、梁フランジ等の端から、1~5mm 残して、部材断面を交換しないよう直線とに切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。
 - ◎完全溶込み溶接部は超音波探傷試験を (行う) 行わない) 。
 - ◎試験を行う場合の平均出良品良率 (A O Q L) は (2.5% , 4.0%) とする。

試験の種類	試験箇所	試験数	備考
超音波探傷試験	突合せ溶接部	標仕7.6.11	

8. スタッド溶接及びデッキプレート溶接
- ◎デッキプレートを鉄骨部材に溶接する工法は、次による。
(アークスポット溶接 ・ 隅肉溶接 ・ 溶接きき溶接)

9. 錆止め塗装
- ◎素地ごしらえは、仕様表18.2.2 (A ・ B ・ C) 種とする。
 - ◎塗料種別 鉄面 標準仕様書表18.3.10の (A) ・ (B) 種 JIS K 5674
 - ◎塗装種別 鉄面 標準仕様書表18.3.3 (A) ・ (B) 種 (工場 1 回、現場 1 回)

10. 工事現場施工
- ◎鉄骨建方の精度は、(社) 日本建築学会「建築工事標準仕様書6 鉄骨工事付則6 鉄骨精度検査基準」による。
ただし以下のものは図面による。
・特に精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分。
・軽微な構造物あるいは構造物の部分。
 - ◎建方用アンカーボルトを (使用する) 使用しない) 。
 - ◎構造用アンカーボルトを (使用する) 使用しない) 。
 - ◎構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法は図示による。
 - ◎アンカーボルトの保持及び埋込み工法は (A) ・ (B) ・ (C) 種とする。但しジャストベースはメーカー仕様による。
 - ◎柱底均しモルタル工法は (A) ・ (B) 種とし、厚さは図示による。A 種の場合の無収縮モルタルは、製造所の仕様による。

11. 軽量形鋼構造
- ◎普通ボルトには、二重ナットなどにより戻止めを行う。ただし、胴縁、母屋類は除く。
また、ボルト締め後のネジ山は、3山以上出るようにする。
 - ◎形鋼、鋼板類の歪めめきは、仕様表14.2.2による。

- 8章 防水工事
1. 一般事項
- ◎防水下地の乾燥については、高周波水分計による地下水分の測定を行い、使用材料のメーカーの工法を確認し、工事を進めること。

2. シーリング
- ◎シーリング材は、JIS A 5758 の規格品とする。
 - ◎種類及び施工箇所

記号	シーリング材の種類 主成分及び硬化機構による区分	施工箇所		目地寸法		接着試験 (簡易)	備考
		幅	深さ	幅	深さ		
MS-2	変成シリコーン系	屋外建具回り (RC に取合うところ)	15	10	三角	有	
		屋外建具回り (外壁に取合うところ)	20	10	有	無	
		窓合部水モルタル下端	20	10	有	有	
		コンクリート部打継目地、誘発目地	20	10	有	有	
		アルミ取合い、防水厚取合い	20	10	有	有	
		屋内建具回り (RC に取合うところ)	10	10	無	無	

- ◎シーリング面への仕上り材仕上げ等 (行う) 行わない) 。
- ◎外部に面するシーリング材は、施工に先立ち (簡易接着性試験) ・引張接着性試験) を行う。

- 9章 屋根及びとい工事
1. 一般事項
- ◎屋根葺き材、装結金物については、下地も含め安全性を確認し、監督員の承諾を得ること。
 - ◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。
 - ◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 $V_{30} = (\dots) \text{ m/s}$
地表面粗度区分 (\dots)
積雪区分 建設省告示第1455号 別表による

2. 折板葺き
- ◎折板はJIS A6514 (金属製折板屋根構成材) による。

施工箇所	屋根の厚さ (mm)	塗装面	形式	山高 (mm)	山ピッチ (mm)	軒先面戸の適用	裏打ち材の有無
屋根	塗装溶融55%712に04-亜鉛メッキ鋼板 0.8mm #1125F1樹脂塗装	片面	はげ工法	160~166程度	500	有り	オレフィン樹脂系フォーム厚4 不燃品

- ◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。また、タイトフレーム、けらば納めは屋根葺き工法に応じた専門業者の仕様による。
- ◎建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法を施工計画書として提出する。

3. とい
- ◎材種 (たて 種 VP カラー等) 径 (100φ) 支持金具 SUS。
 - ◎硬質強化ビニル雨どいの1本の長さは、10m以内とし、伸縮に対応する工法を選択すること。
 - ◎さがり止めは図面による、図示のもの以外は仕様13.5.3 (a) (4) 又は13.5.3 (e) (2) による。

- 10章 金属工事
1. 一般事項
- ◎製品の取付に当たっては、受材の有無並びにアンカーの長さ、径及び本数等について、十分耐力のある工法を選択し、監督員の承諾を得ること。

2. 表面処理

種類	表面仕上げの種類	施工箇所
SUS 304	HL	建具下枠

- ◎アルミニウム及びアルミニウム合金

表面処理の種類	塗装又は被膜の種類、塗布方法、仕上がり	施工箇所
B-1	シルバー	胴縁、アルミ庇

- ◎鉄鋼の亜鉛めっき

種別	表面処理方法	めっきの種類	記号又は等級	施工箇所
B種	溶融亜鉛めっき	2種	HDZ45	屋外手摺

- ◎亜鉛めっきの試験は (行う) 行わない) 。

3. 溶接、ろう付け等
- ◎溶接及びろう付けによる接合後は、各表面仕上げの種類に応じた表面処理を行うこと。ただし、亜鉛めっき面については、仕様14.2.3による。
 - ◎鉄の溶接は、7章「鉄骨工事」に準ずる。

4. 軽量鉄骨天井下地
- ◎野縁などの種類：屋内19形、屋外25形とし、仕様表14.4.11による。

5. 軽量鉄骨壁下地
- ◎スタッド、ランナーの種類は、標準仕様書14.5.3 (表14.5.1) による。

	徳島県企業局	工事名 R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-005	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川建社一館
		図面名 特記仕様書 4	縮尺	

6. 金属成形板張り

種別	材質	防水紙	板幅	厚さ	形状	表面処理	取付下地
角波サイディング張り	塗装 溶融5%アルミニウム -亜鉛メッキ鋼板	透湿防水シート	125~140 mm程度	0.5mm	図示による	タリキ樹脂塗装	鉄骨(ステンレス止め)

7. 手すり及び
タラップ

材質	表面仕上げ	直径	取付箇所	備考
スチール	H0245	図面による	屋外手すり	
スチール	SOP塗り	図面による	屋内手すり	

◎手すりの支柱は、コンクリートあるいはモルタルの中に入る部分であっても錆止め処理を行うこと。

1.1 章 左官工事

1. 一般事項

◎下地調整に用いる吸水調整材の使用方法は、製造所の仕様による。
◎コンクリート等面の下地及び各塗り層は、消掃のうえ適度の水溜しを行って、次の層の塗り方にかかると。

2. モルタル塗り

◎下地、塗り面等の浮いている部分は、直ちに補修する。

施工箇所	仕上げの種類	目地	防水の有無	備考
屋内階段床	金こて押え	無	無	
屋外階段部床	金こて押え	無	有	
窓台	金こて押え	無	有	
防水層ビット部	金こて押え	無	有	内部充填

◎防水剤の製造所：評価名簿による。
◎目地の位置及び寸法は図示による。
◎防水モルタルに用いる防水剤の使用方法は、製造所の仕様による。
◎総塗り厚さが25mm以上となる場合は、はく落防止法とすること。

3. 床コンクリート
直均し仕上げ

◎施工箇所（1・2階床、根巻コンクリート・スチール棚置場上面）

4. 仕上塗材仕上げ

◎仕上塗材は、JIS A 6909（建築用仕上塗材）による。なお、下塗材、主材及び上塗材は、同一製造所の製品とする。

種類	呼び名	上塗材	仕上げの形状	工法	下地仕上
撥水材	コウチ打放し保護	水7系リゾノ樹脂		吹付け	コンクリート打放し

◎建物内部に使用するUV7樹脂等（UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂）又はUV7樹脂（UV7樹脂）を用いた塗料のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。
◎所要量等の確認は、（標仕表15.5.4. 単位面積当たりの使用量）による。

1.2 章 建具工事

1. 一般事項

◎外部に面する建具は、建築基準法施行令、又は「屋根葺き材、外装材及び屋外に面する構造の基準（昭和46年建設省告示第109号）」に基づき安全性を確認すること。
◎防火戸の指定は建具表による。
◎建具見本の製作及び特殊な建具の依頼は、建具表による。
◎防火建具部品の適用は、建具表による。

2. アルミニウム製
建具

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法	使用箇所	表面処理
A種	S-4	A-3	W-4	70	図面参照	B-1

◎製作所：評価名簿による。
◎建具には製作者名を表示すること。

3. 鋼製建具

耐風圧性	気密性	水密性	遮音性	面内変形追随性	使用箇所	表面処理	備考
					図面参照	溶融亜鉛めっき鋼板	屋内建具枠

◎鋼板は、JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）による表面処理亜鉛めっき鋼板とし、めっき付着量はZ12又はF12を満足するものとする。
◎製作所：評価名簿による。

4. 木製建具

◎建具材の含水率の種別は、（A）（B）（C）種とする
◎見込み寸法、表面板の厚さは図示による。
◎フラッシュ戸の表面材の合板の品質については、UV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆のフラッシュ戸を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。その他は、標仕表 6. 2(b)(1)（・）による。
◎建物内部の木製建具に使用するUV7樹脂水溶液を用いた遮音作用、壁紙施工用及び建具用でん粉系接着剤のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆のでん粉系接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

5. 建具金物

◎金物の種類及び見え掛り部の材質は、標仕表16.7.11による。
◎既成又はこれに準ずる建具金物は、建具製作所の仕様による。
◎釦り玉及びいぼ、押板類、カシメ等の取付け位置は図示による。

6. 軽量シャッター

設置場所	1階車庫・倉庫
セクション材料	スチールタイプ
耐風圧強度	500pa
開閉装置	電動式
安全装置	障害物感知装置
スラット仕様	t=0.8mm
シャッターケース、レール、座板、まぐさは図面による。	

◎製作所：評価名簿による。

7. ガラス

◎板ガラス

種類	品種	厚さ	備考
網入り磨き板ガラス 複層ガラス	JIS R 3204 JIS R 3209	6.0mm フロート5.0mm+空気層6mm+網入り透明6.0mm	

◎外部に面する網入り板ガラス等の下辺小口及び縦小口下端に防錆処理を行うこと。

◎ガラスのとめ材の種類

建具の種類	材質	ガラス溝の大きさ
アルミニウム製	SR-1両面	標仕表16.14.1

◎防火設備のガラスとめ材は、防火設備認定品とする。

8. ガラス用フィルム

名称	種類	張り面	備考
紫外線カットフィルム	2種	内張り	型ガラス(スリガラス)調フィルム

◎品質はJIS A 5759による。

1.3 章 塗装工事

1. 一般事項

◎防火材料又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。
◎塗料はUV7樹脂等（UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂）又はUV7樹脂（UV7樹脂）を用いた塗料のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。
◎UV7樹脂等（UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂）又はUV7樹脂（UV7樹脂）を用いた塗料のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

2. 合成樹脂調合
ペイント塗り
(SOP)

区分	種別		素地ごしらすえ	錆止め塗料		備考
	屋外	屋内		屋外	屋内	
鉄面		標仕18.4.4 B種	C種	A種	鉄部	
亜鉛めっき面		標仕18.4.5	B種	A種	スチール戸枠	

3. 耐候性塗料 (DP)

区分	種別	素地ごしらすえ	備考
屋外亜鉛メッキ面	標仕18.7.3 上塗り等級 1級(ふっ素系)	B種	シャッター3方枠
ステンレス面	標仕18.7.3 上塗り等級 1級(ふっ素系)に準じる	A種	防水扉面

1.4 章 内装工事

1. セッコウボード
その他ボード及び
合板張

材質・規格品	施工箇所	工法	厚さmm	不燃材等の区分	小ねじ・釘・接着剤の種類	下地の種類	備考
スレートボード(フレキシブル板) JIS A 5430の規格品	天井 壁	目透かし 目透かし ジョイカー施工	4 8 5	不燃 不燃 不燃	小ねじ・釘・接着剤の種類	標仕19.7.2(d)(e) LGS 標仕19.7.2(d)(e) LGS 標仕19.7.2(d)(e)	LGS
ラワン合板(2種) 農林省告示第383号	保管庫上部 床	突付け	18			標仕19.7.2(d)(e)	軽量鉄鋼 軽量形鋼

◎合板、パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆の合板、パーティクルボード及びMDFを使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

2. 断熱・防露

種類	種別	厚さmm	工法	保管庫	施工箇所	備考
グラスウール	JIS 6301 24kg/m2	50mm	敷き込み	保管庫	天井	
グラスウール	JIS 6301 24kg/m2	50mm	はめ込み	保管庫	壁	

◎ロック、UV7樹脂又はUV7樹脂を使用した断熱材のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆の断熱材を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。
◎製作所：評価名簿による。

3. 接着剤

◎壁紙施工用でん粉系接着剤、UV7樹脂等（UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂、UV7樹脂）又はUV7樹脂（UV7樹脂）を用いた接着剤のUV7樹脂の発光量は、F☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、UV7樹脂の発光量が、F☆☆☆☆の接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

	徳島県企業局	工事名 R 1 全総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-006	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川端社一郎
		図面名 特記仕様書 5	縮尺	

1 5章 ユニット及び

その他の工事

1. 階段滑り止め (屋内)
 - ◎材種 (SUS304)、形状 (ゴムタイヤ有り)、エンド無し、寸法 (35)
 - ◎取付け方法は (アンカーピン+接着工法) とする。
2. 階段滑り止め (屋外)
 - ◎材種 (SUS304)、形状 (ゴムタイヤ無し)、寸法 (35)
 - ◎取付け方法は (アンカーピン+接着工法) とする。
3. アルミ庇
 - ◎強度に関する資料を監督員に提出すること。取付ピッチ、支持材ピッチは採用メーカーの規定・構造計算による。
4. バリカー
 - ◎図面による
5. スチール棚
 - ◎図面による
6. 目地板
 - ◎選定資材製
7. 防水層
 - ◎スライド式防水層 (正水圧)
 - 材質 ステンレス製 (錆止め塗装のうえDP塗り)
 - 防水高さ NGL+1150
 - 明細は防水層詳細図参照
8. 走行クレーン
 - ◎走行クレーン
 - 定格荷重 2,800/t
 - スパン 10.78m
 - 明細は走行クレーン詳細図参照

1 6章 排水工事

1. 排水管

◎排水管材料

材種	管の種類	呼び径	備考
硬質ポリ塩化ビニル管	VP	100	

2. 側溝、排水溝等

◎排水マスの種類：図示による。

◎グレーチング

材質	用途	通用荷重	メインレバー	垂鉛めつき付着量	上面形状	備考
スチール	溝用	T20	35.3程度	450g/m2以上	ブレーン	ボルト固定
スチール	拵用	T14	30.0程度	450g/m2以上	ブレーン	ボルト固定
スチール	拵用	T6	30.0程度	450g/m2以上	ブレーン	ボルト固定

・製造所：評価名簿による

◎砂の粒度試験は、(行う ・ 行わない)

3. 街きよ、縁石、側溝

◎地業材料：再生クラッシャーラン 厚さ：100

◎コンクリート設計基準度等：18N/mm²、スランプ=15

◎街きよ、縁石及び側溝

名称	形状	寸法	備考
境界ブロック	地先	150×120	

4. その他

◎地業材料の種類：再生クラッシャーラン 厚さ：図示による。

◎コンクリート：設計基準強度(18N/mm²)、スランプ(15)

◎埋め戻し材料：(A、B)・C・D種とする。

◎排水工事の仕様は、図示以外は、建築工事標準詳細図による。

1 7章 舗装工事

1. 路床

◎盛土材料 B種

◎路床土の支持力比 (CBR) 試験は (行う [乱した土・乱さない土]、行わない)

◎路床締固め度試験は (行う、行わない)。

◎砂の粒度試験は (行う、行わない)。

◎現場 CBR 試験を (行う、行わない)。

2. 路盤

◎路盤材料は再生クラッシャーランとし、厚さは図示による。

◎締固め試験は (行う、行わない)。

◎路盤の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。

3. アスファルト舗装

舗装の種類	部位	舗装の厚さ (mm)
アスファルト	補修部	50

◎再生加熱アスファルト混合物を (使用する)。

種 別	表層、基層の別	種類	備考
再生加熱アスファルト混合物	表層	密粒度アスファルト混合物	

◎シーラコートは (行う、行わない)。

◎アスファルト混合物の抽出試験は (行う、行わない)。

◎切取り試験は (行う、行わない)。

◎表層の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。

◎地域は (一般地域・寒冷地域) とする。

◎舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。

徳島県企業局

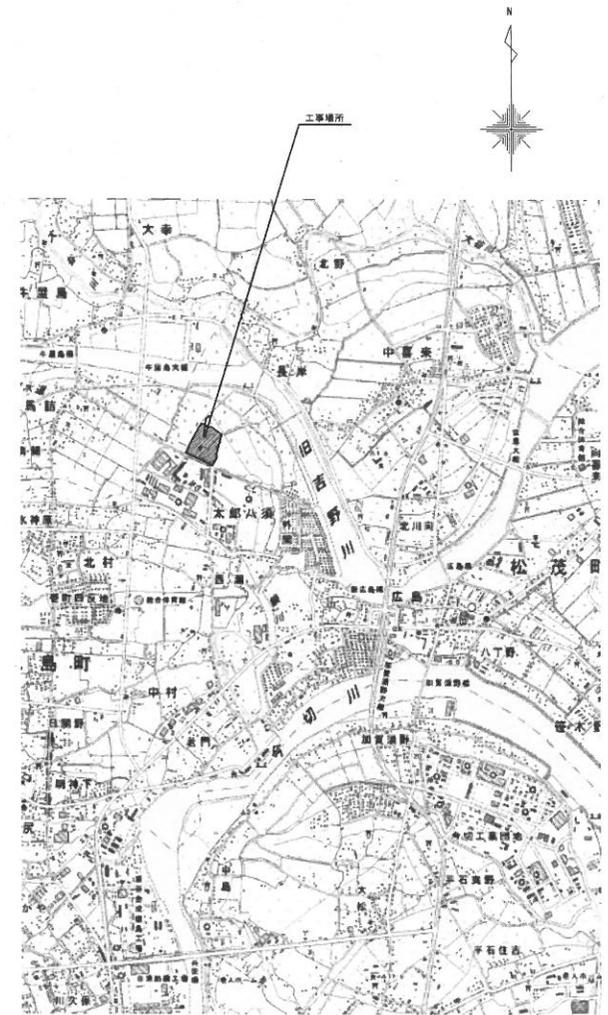
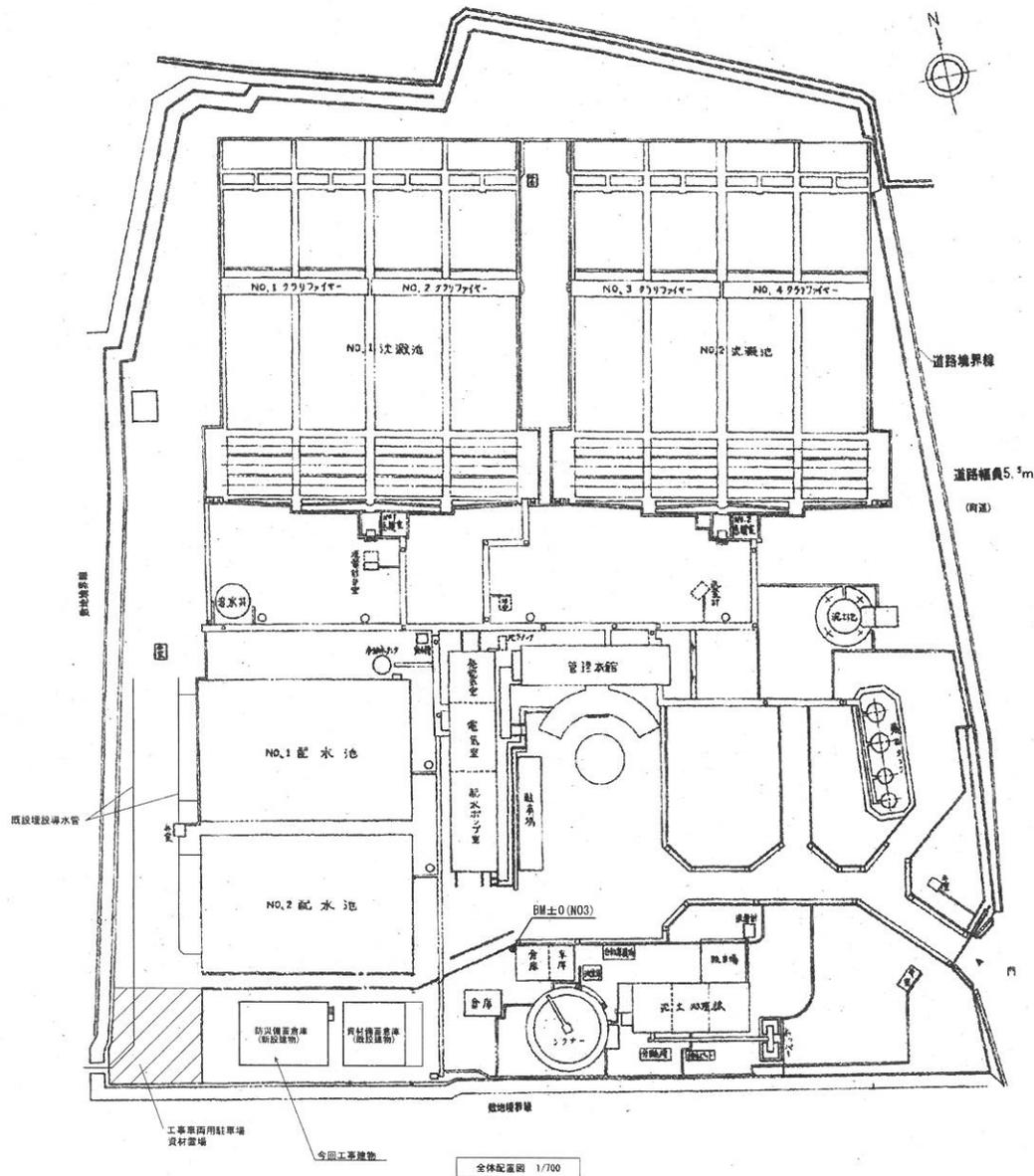
工事名
R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事

図面番号
B-007

1級建築士登録
第126265号
川建設
川建設一部

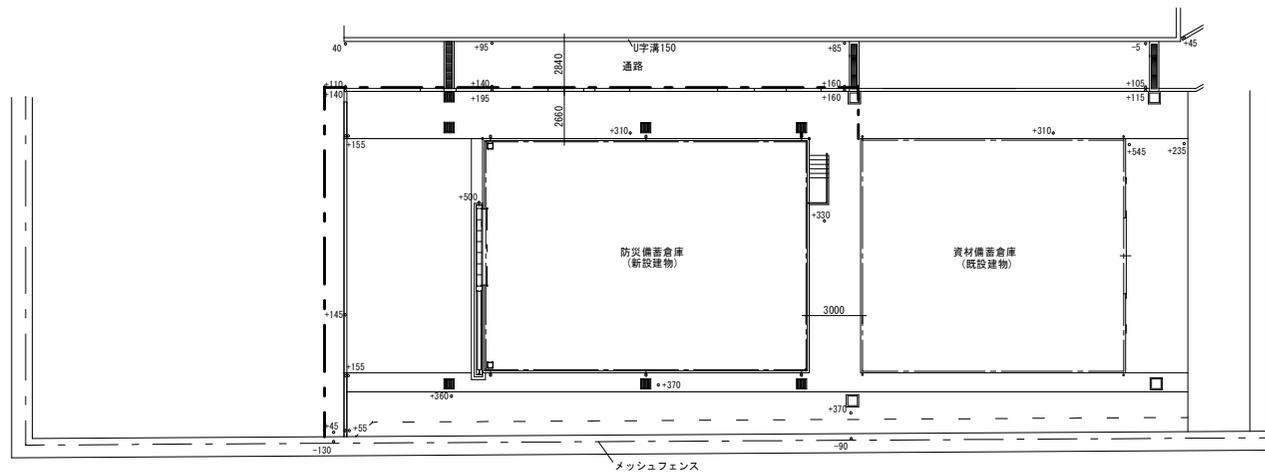
図面名
特記仕様書 6

縮尺



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。（承認番号 平30情保、第573号）
この地図を複製して使用する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。」

	徳島県企業局	工事名 R1企船管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事 図面名 全体配置図、付図見取図	図面番号 B-008 縮尺 1/700	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川耀社一郎
--	--------	--	------------------------------	---



NGL=KGW+400とする

配置図 1/200

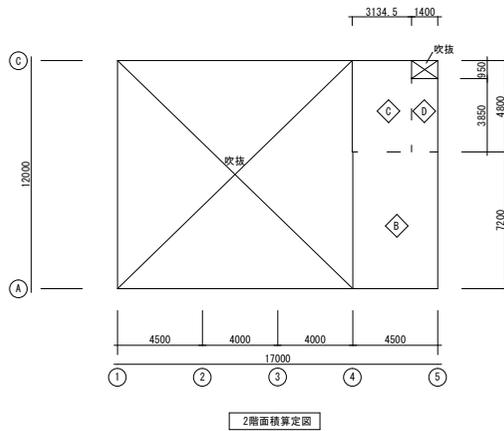
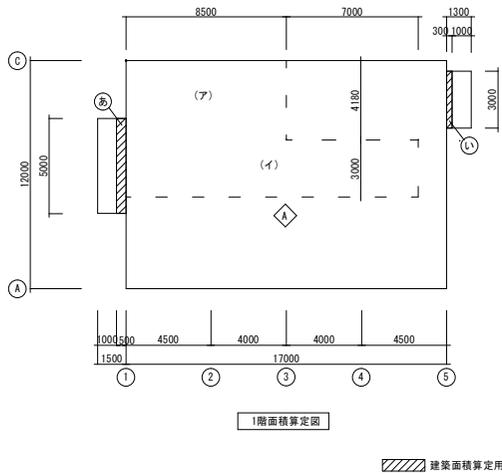
--- A型バリケード
(50m)

	徳島県企業局	工事名 R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-009	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川端社 川端社 川端社
		図面名 配置図	縮尺 1/200	

内部仕上表

階	室名	床	巾木	壁	天井	CH	備考
1	車庫・倉庫	コンクリートこて押え(目地カッター切り)	コンクリート打放し(塗装合板型枠)	スレートボード(フレキシブル板)厚5 ジョイナー工法	屋根表し(オレフィン樹脂系フォーム厚4)デッキプレート表し		スチール棚
2	倉庫	コンクリートこて押え 500角	外壁表し 一部ビニル巾木 H=60	スレートボード(フレキシブル板)厚5 ジョイナー工法 一部スレートボード(フレキシブル板)厚8底目地張り	屋根表し(オレフィン樹脂系フォーム厚4)		スチール棚
2	保管庫	コンクリートこて押え	ビニル巾木 H=60	スレートボード(フレキシブル板)厚8底目地張り	スレートボード(フレキシブル板)厚4底目地張り	2150	
1~2	階段	モルタルこて押え(溶接金網3.2φ×50×50)	鉄骨PL SOP塗り	スレートボード(フレキシブル板)厚5 ジョイナー工法 一部スレートボード(フレキシブル板)厚8底目地張り	屋根表し(オレフィン樹脂系フォーム厚4)		
2の上	保管庫上部	合板厚18張り(ビス止め)	外壁表し	スレートボード(フレキシブル板)厚5 ジョイナー工法	屋根表し(オレフィン樹脂系フォーム厚4)		

スレートボード(フレキシブル板)厚4・5・8	不燃材料
オレフィン樹脂系フォーム厚4	不燃材料

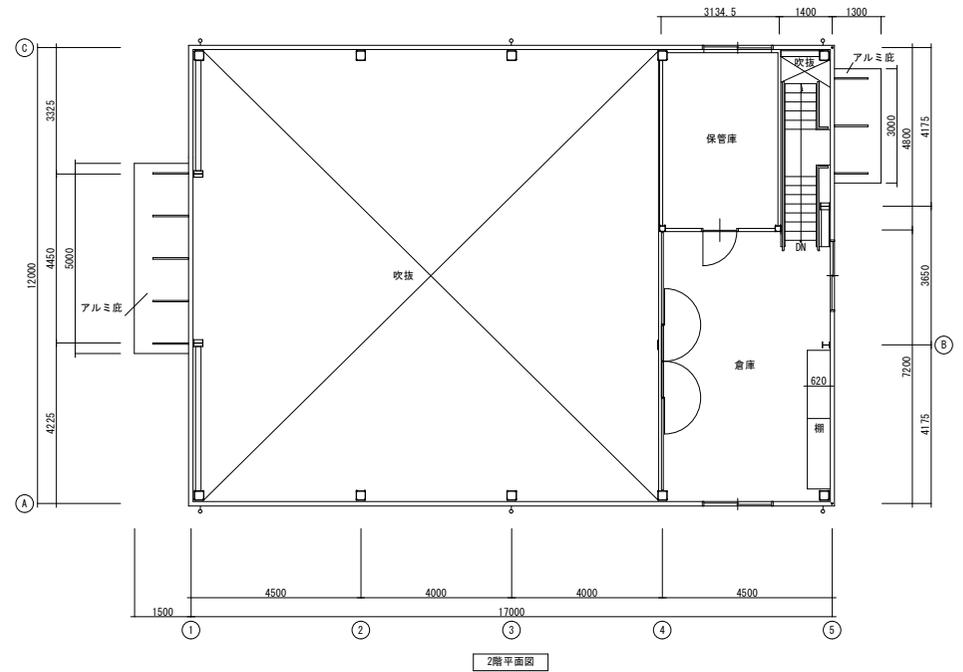
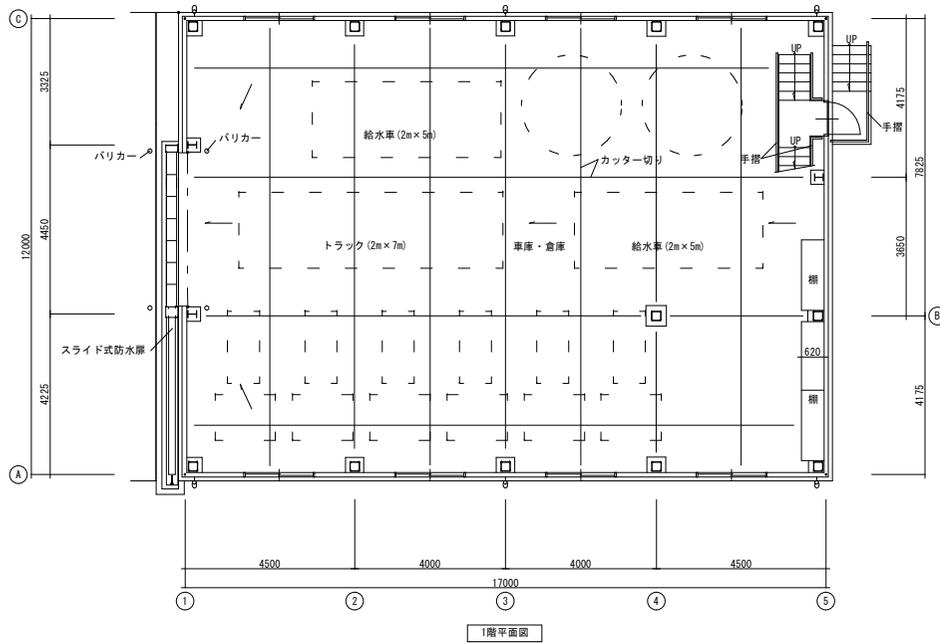
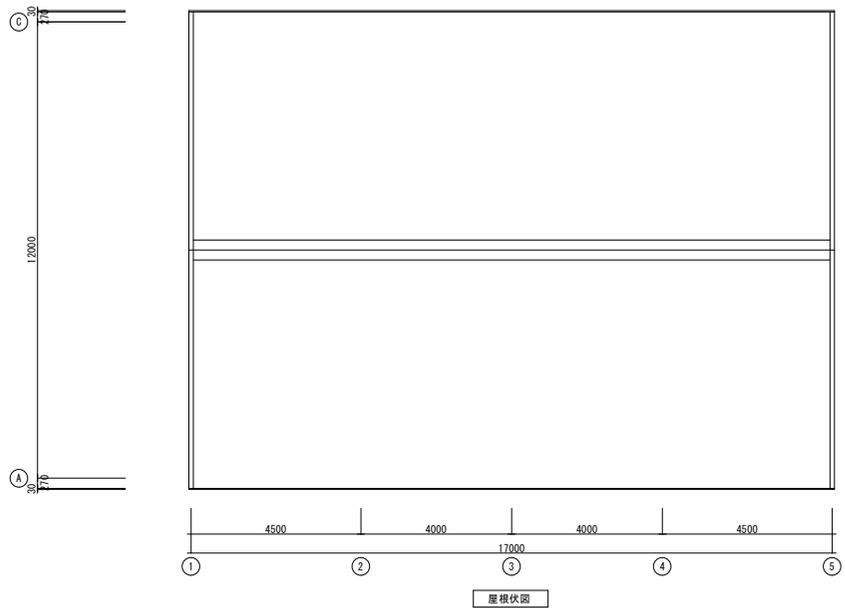


面積計算表	記号	面積	合計
1階床面積	A	17.00 × 12.00 × 1 = 204.0000	204.0000
	計		204.00 m2
2階床面積	B	4.50 × 7.20 × 1 = 32.4000	
	C	3.1345 × 4.80 × 1 = 15.0456	
	D	1.40 × 3.85 × 1 = 5.3900	
	計		52.8356 52.83 m2
建築面積	1階床面積		204.0000
	あ	5.00 × 0.50 × 1 = 2.5000	
	い	3.00 × 0.30 × 1 = 0.9000	
	計		207.4000 207.40 m2
車庫面積	ア	8.50 × 4.18 × 1 = 35.5300	
	イ	15.50 × 3.00 × 1 = 46.5000	
	計		82.0300 82.03 m2
倉庫面積	延床面積		256.83
	車庫面積		-82.03
	計		174.80 m2

建築面積	207.40m2
1階床面積	204.00m2
2階床面積	52.83m2
延床面積	256.83m2



屋内階段	鉄骨階段 有効巾 830mm 踏面 240mm 蹴上 183.167mm - 185.625mm
屋外階段	鉄筋コンクリート階段 有効巾 918.65mm 踏面 240mm 蹴上 191.667mm

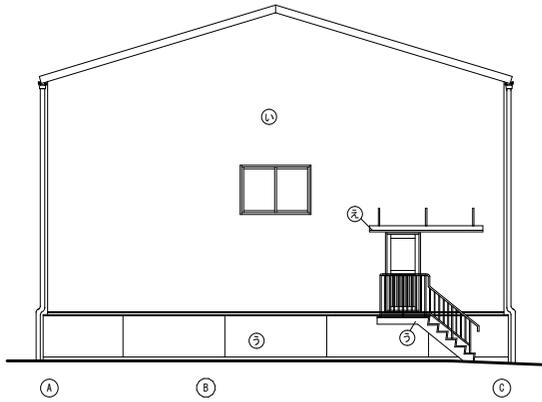


徳島県企業局

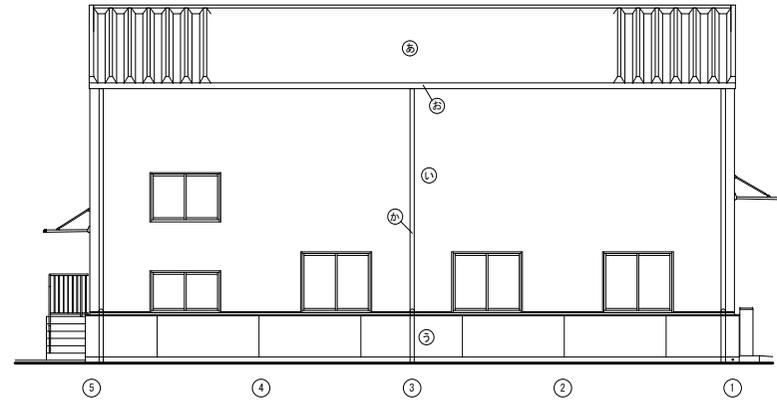
工事名 R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事
図面名 1・2階平面図、屋根伏図

図面番号 B-011
縮尺 1/100

株式会社 川建設
1級建築士登録 第126265号
川端社一郎

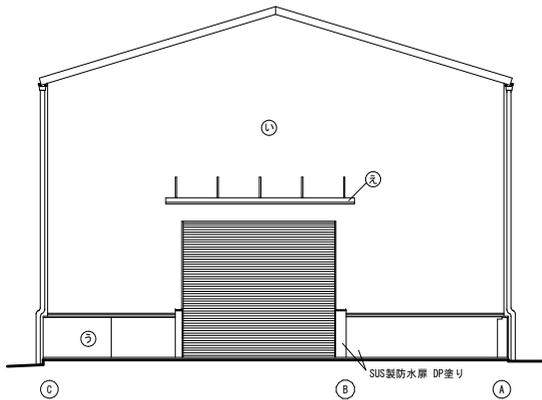


東立面図

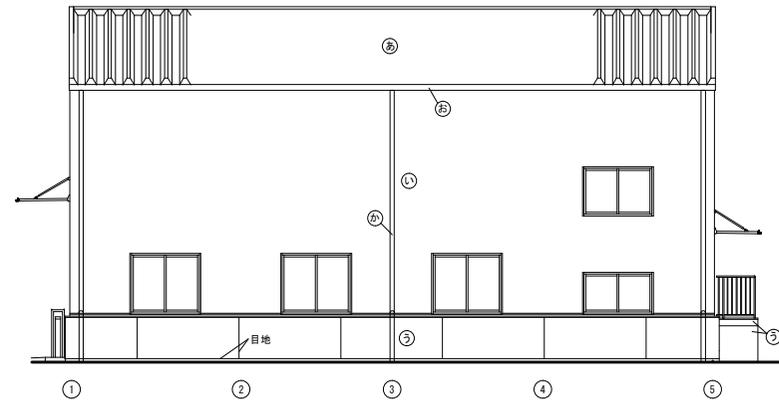


北立面図

記号	仕上
㉑	屋根 塗装 溶融55%アルミニウム-亜鉛メッキ鋼板 厚0.8 折板葺き 裏打ち材 オレフィン樹脂系フォーム厚4
㉒	外壁 塗装 溶融55%アルミニウム-亜鉛メッキ鋼板 厚0.5 角波サイディング張り
㉓	巾木 コンクリート打放し(塗装合板型枠)撥水材
㉔	アルミ庇
㉕	軒樋 カラー塩ビ製 角形(前高)W150
㉖	タ子樋 カラーVP 100φ



西立面図



南立面図

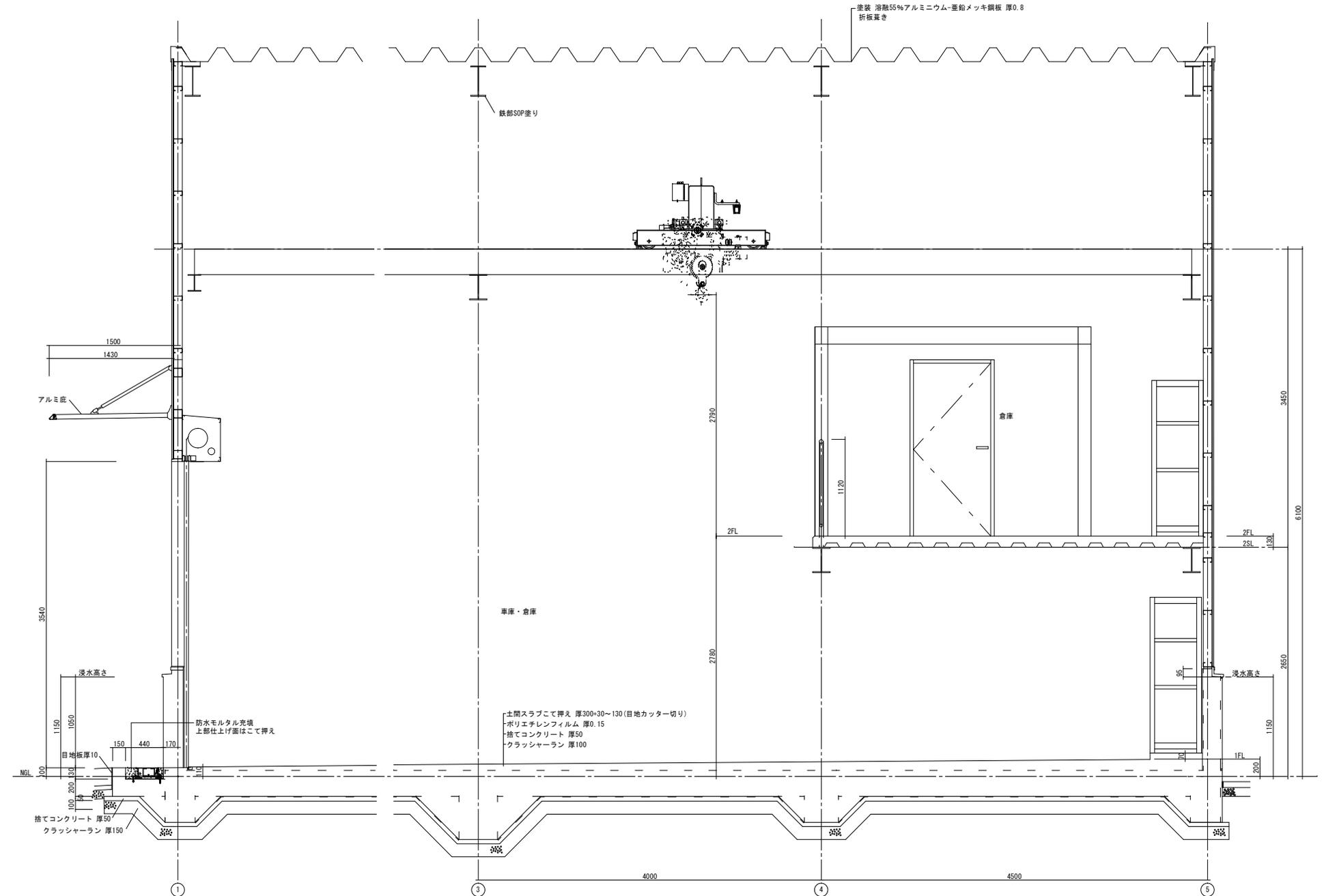
徳島県企業局

工事名 R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事
図面名 立面図

図面番号 B-012
縮尺 1/100

株式会社 川建設

1級建築士登録
第126265号
川端社 一郎

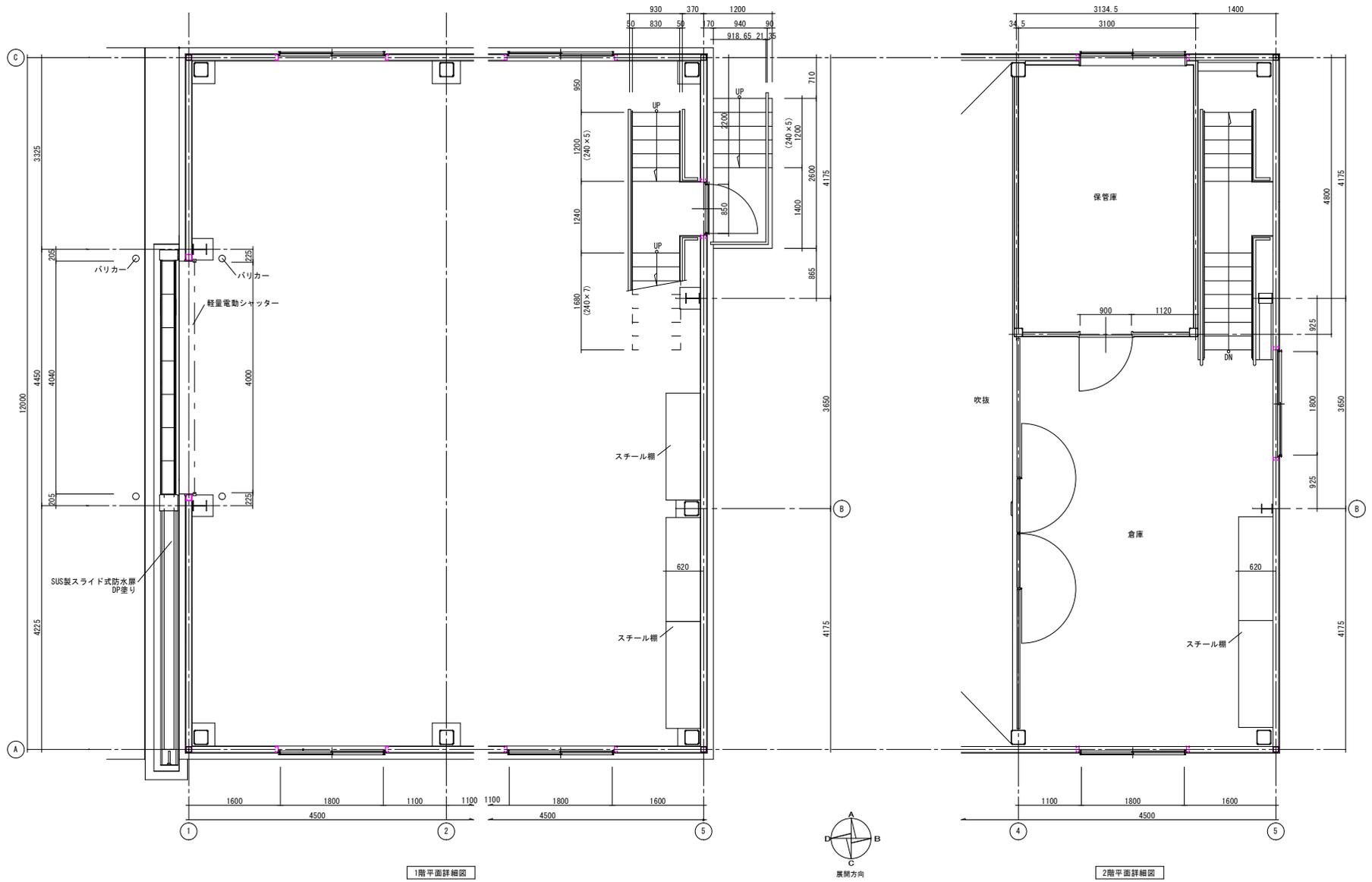


徳島県企業局

工事名 R1企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事
 図面名 矩計図 2

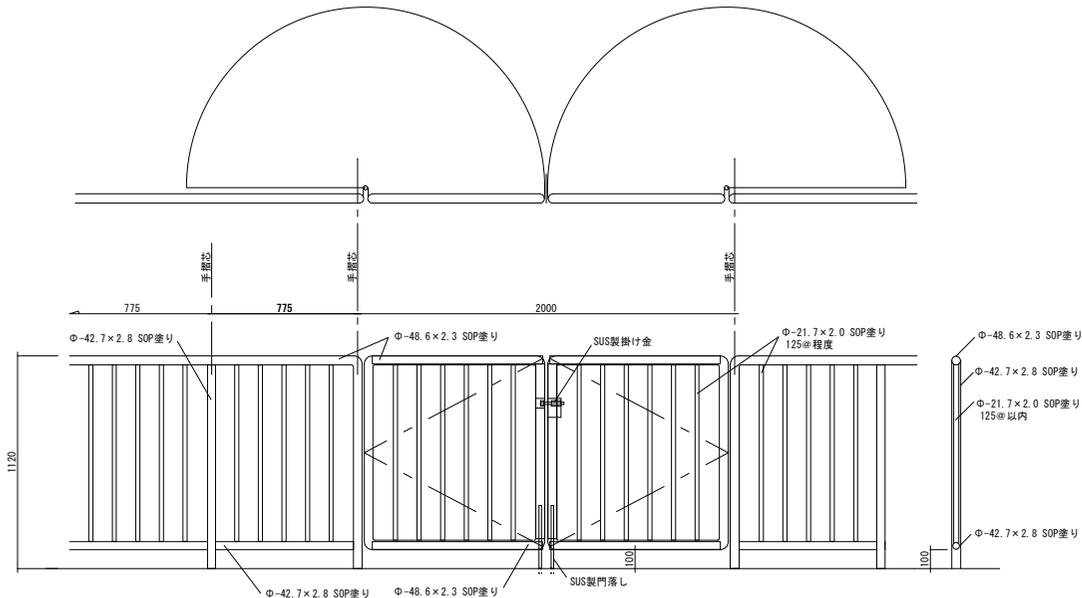
図面番号 B-014
 縮尺 1/30

株式会社 川建設
 1級建築士登録 第126265号
 川端社一部

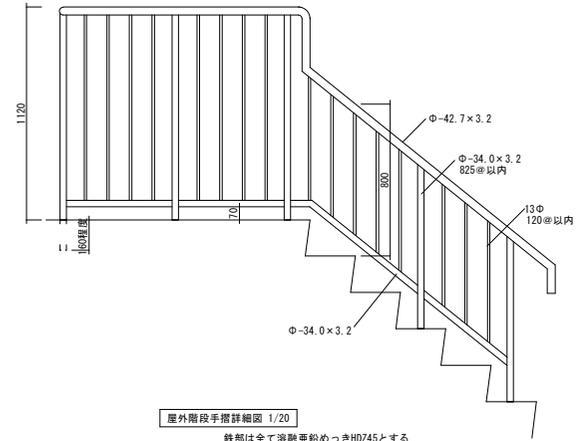
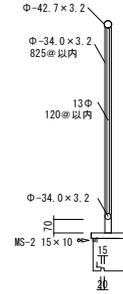


徳島県企業局	工事名	図面番号	1級建築士登録 株式会社 川建設 第126265号 川端社一郎
	R1企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	B-016	
	図面名	縮尺	
	平面詳細図	1/50	

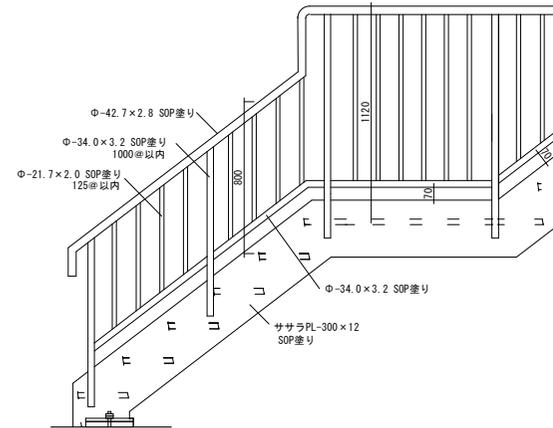
型式	両開き手摺戸(常時は閉鎖使用)
材質	スチール SOP塗り
室名(数量)	2階倉庫(1ヶ所)
付属金物	SUS製重量用下番、SUS製掛け金 SUS製門落し、SUS製開放時ストッパー 他一式



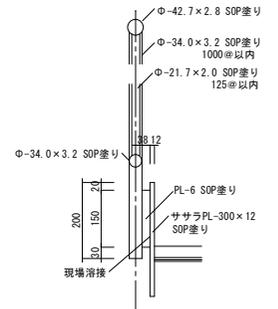
収技部スチール手摺・両開き手摺戸詳細図 1/20



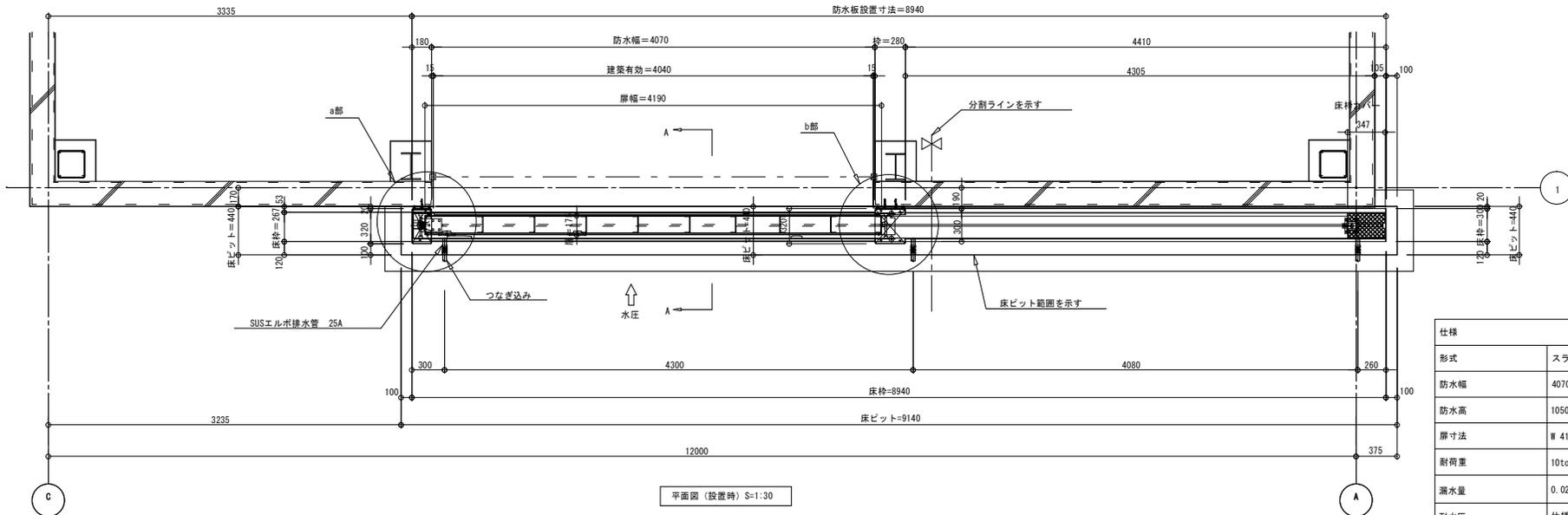
屋外階段手摺詳細図 1/20
鉄部は全て溶融亜鉛めっきH0Z45とする



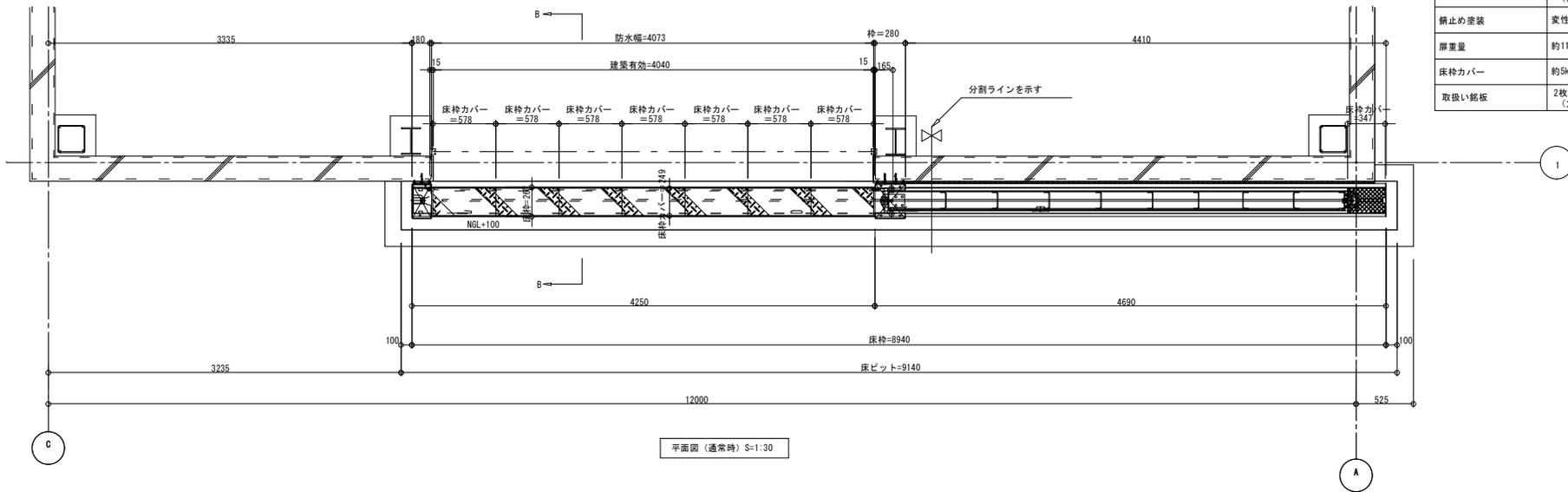
屋内階段手摺詳細図 1/20



屋内階段手摺詳細図 1/10

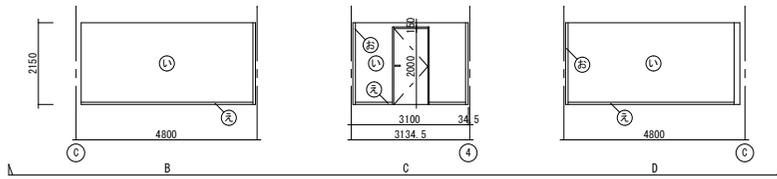


平面図 (設置時) S=1:30



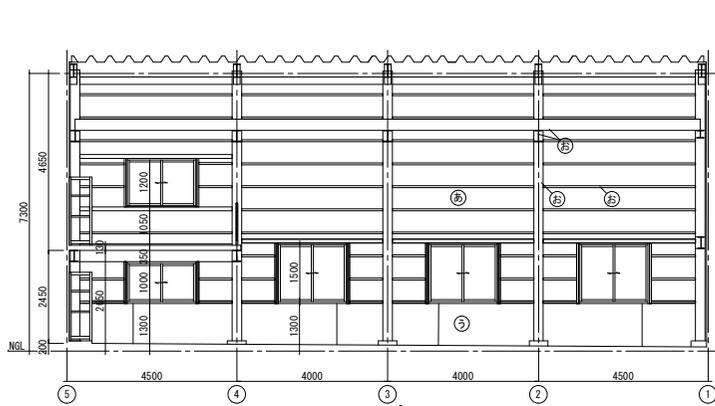
平面図 (通常時) S=1:30

仕様	
形式	スライド式防水扉 (正水圧)
防水幅	4070mm
防水高	1050 mm
扉寸法	W 4190 × H 1110 × D 175 [mm]
耐荷重	10ton
漏水量	0.02 m ² /h/m ² (工場出荷時)
耐水圧	仕様の「防水高さ」までの水圧
主要材質	表面: SUS304 錆止め塗装 (仕上げ塗装: DP塗り) 扉骨材: スチール錆止め塗装仕上げ (仕上げ塗装: DP塗り) 枠: SUS304+錆止め塗装仕上げ (仕上げ塗装: DP塗り)
錆止め塗装	変性エポキシ樹脂下塗り塗料 グレー色
扉重量	約1100kg
床枠カバー	約5kg/枚
取扱い銘板	2枚設置 (大きさは仕様メーカーによる)

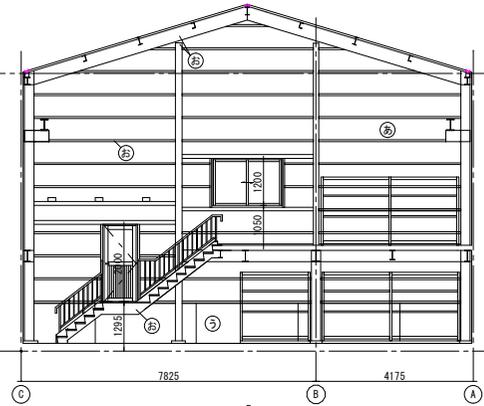


2階 保管庫

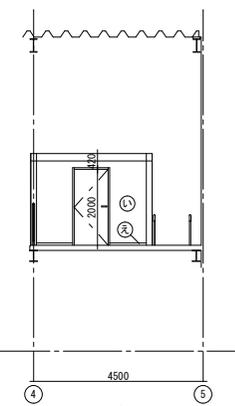
記号	仕上
ⓑ	スレートボード(フレキシブル板)厚5 ジョイナー工法
ⓒ	スレートボード(フレキシブル板)厚8 庇目地張り
ⓓ	コンクリート打放し(塗装合板型枠)
Ⓐ	ビニル巾木 H=60
Ⓔ	鉄部 SOP塗り



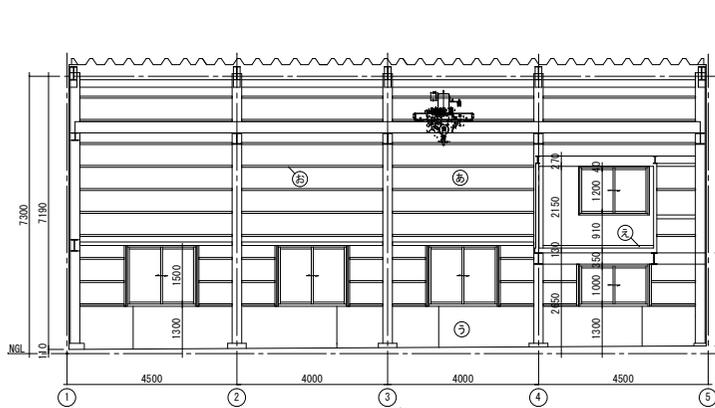
1階 車庫・倉庫



1階 車庫・倉庫 2階 倉庫

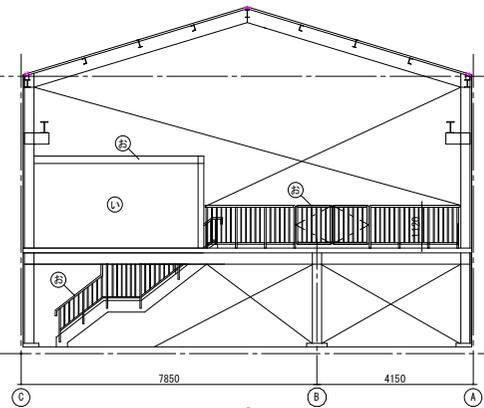


2階 倉庫

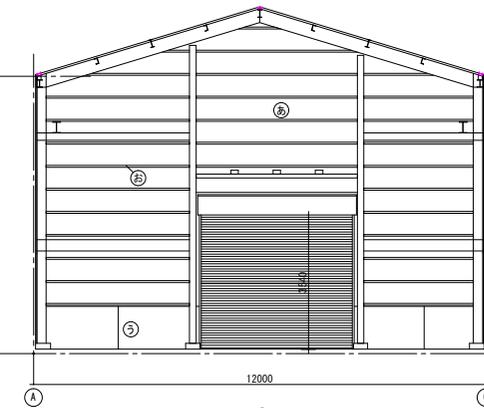


1階 車庫・倉庫

2階 保管庫



1階 車庫・倉庫



1階 車庫・倉庫

徳島県企業局

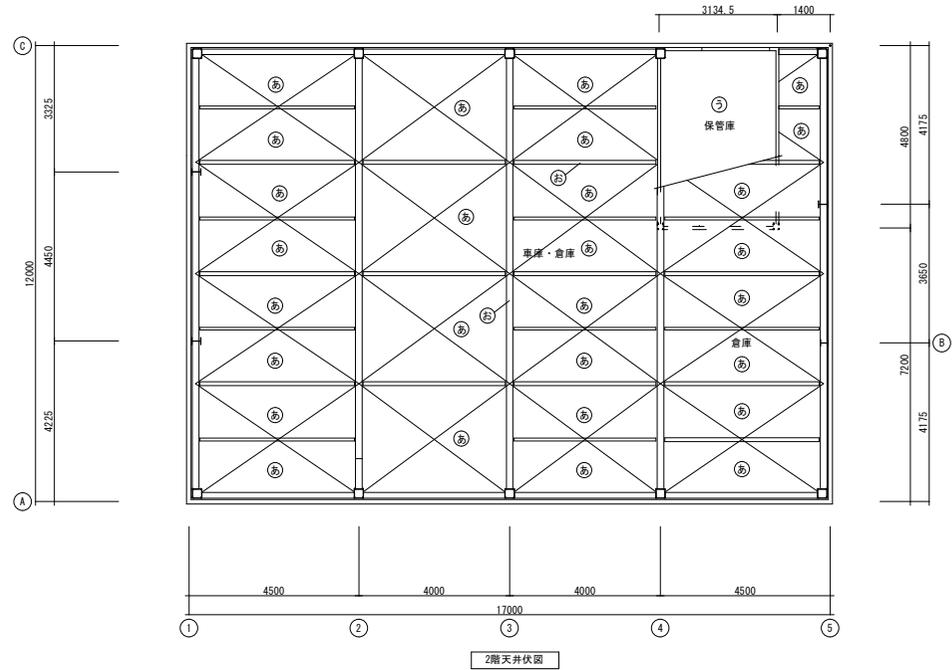
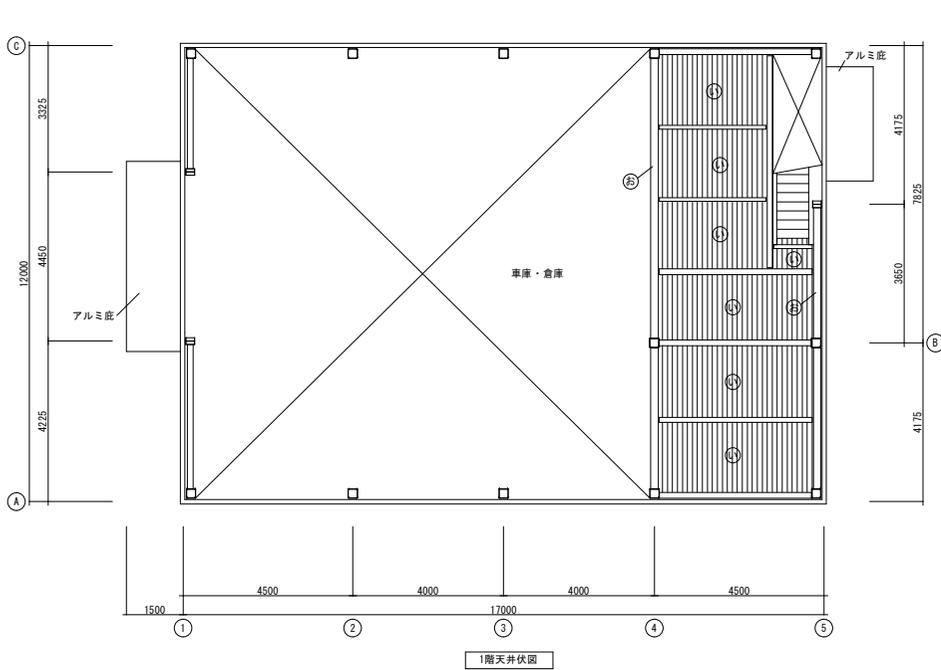
工事名 R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事
図面名 展開図

図面番号 B-022
縮尺 1/100

株式会社 川建設

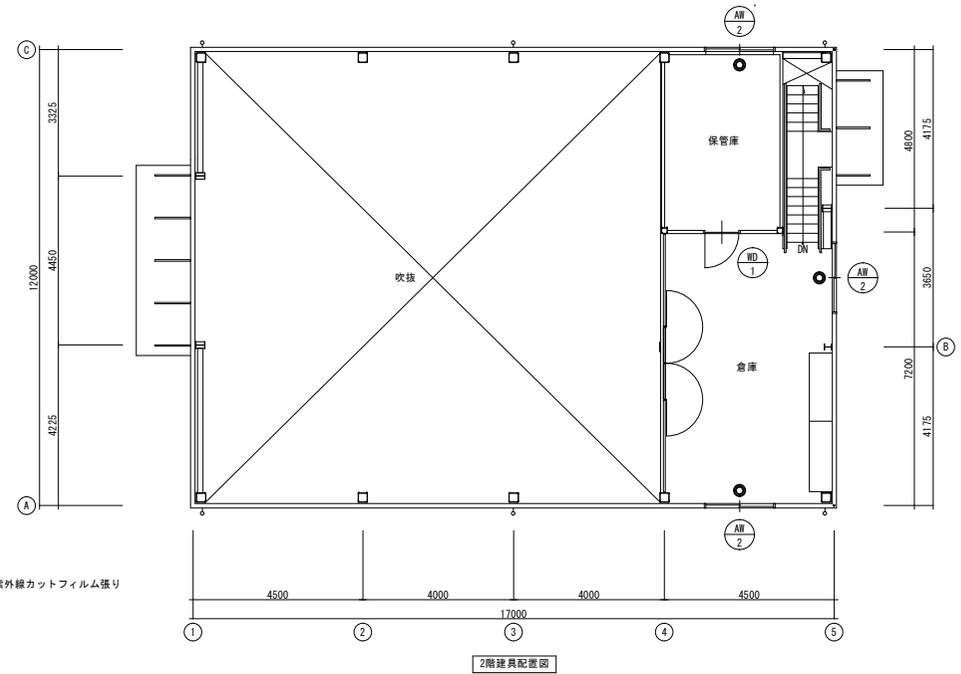
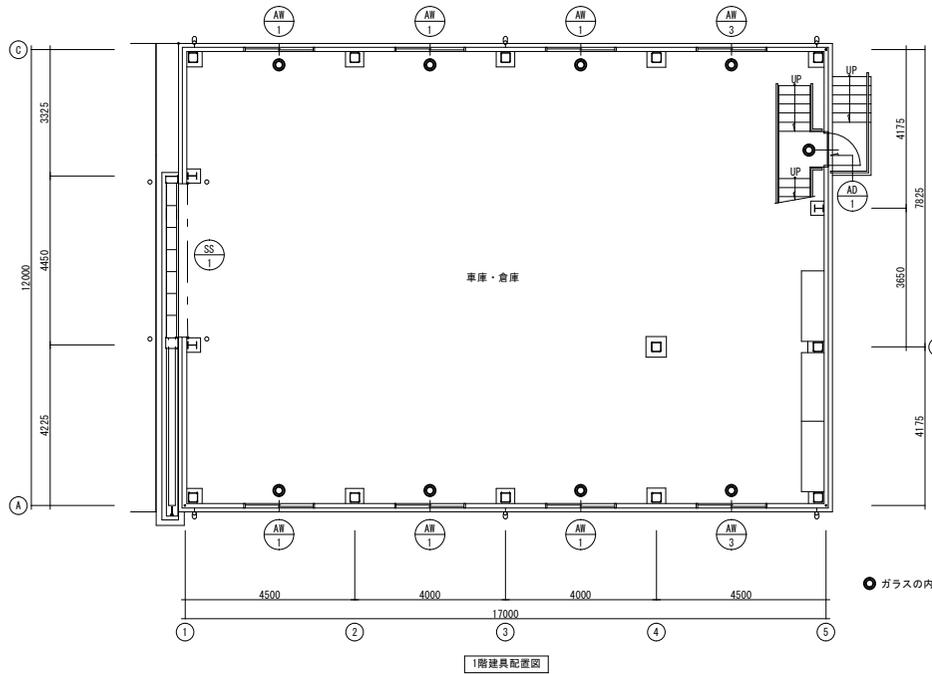
1級建築士登録
第126265号
川端社一郎

記号	仕上
㊦	屋根表し
㊩	デッキプレート表し
㊪	スレートボード(フレキシブル板)厚4底目地張り
㊫	アルミ庇
㊬	鉄部 SOP塗り

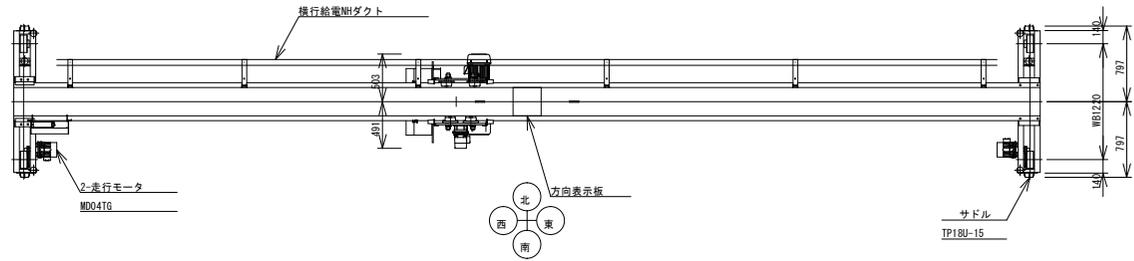


記号	AW1	AW2 AW2'	AW3	AD1	SS	WD1	
図							
型式	引違い窓	引違い窓	引違い窓	片開き扉戸	軽量電動シャッター	片開きフラッシュ戸(スチール製3方枠)	
材質(見込)	アルミ(シルバー)	アルミ(シルバー)	アルミ(シルバー)	アルミ(シルバー)	スラット 幅=0.8	3方枠 溶融亜鉛メッキ鋼板t=1.6 S0P 扉 ポリエステル各板両面フラッシュ (36)	(100)
室名(数量)	1階車庫・倉庫 (6)	2階倉庫 2階保管庫	1階車庫・倉庫 (2)	1~2階階段 (1)	1階車庫・倉庫 (1)	2階保管庫 (1)	
ガラス	網入り磨き板ガラス6.8mm	AW2 網入り磨き板ガラス6.8mm AW2' 複層(フロート5.0mm+空気層6mm+網入り磨き6.8mm)	網入り磨き板ガラス6.8mm	網入り磨き板ガラス6.8mm			
付属金物	戸車、クレセント	戸車、クレセント AW2' のみアルミ額縁 W165	戸車、クレセント	丁番、押棒、ドアローザー、シリンダー錠 SUS下枠	レール(SUS製)、まぐさ(SUS製)、座板(SUS製)、角型ケース リモコンスイッチ、外壁部溶融亜鉛メッキ鋼3方枠 他一式	ピボットヒンジ、ドアローザー、レバーハンドル シリンダー錠 他一式	
備考	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	鉄骨用サッシ	スラットの材質は塗装溶融亜鉛メッキ鋼板及び鋼帯 又は塗装溶融亜鉛-5%7%t=2%合金メッキ鋼板及び鋼帯とする		

全てのガラスにはUVカットフィルムを内側から貼り付ける

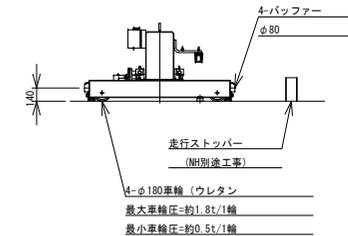
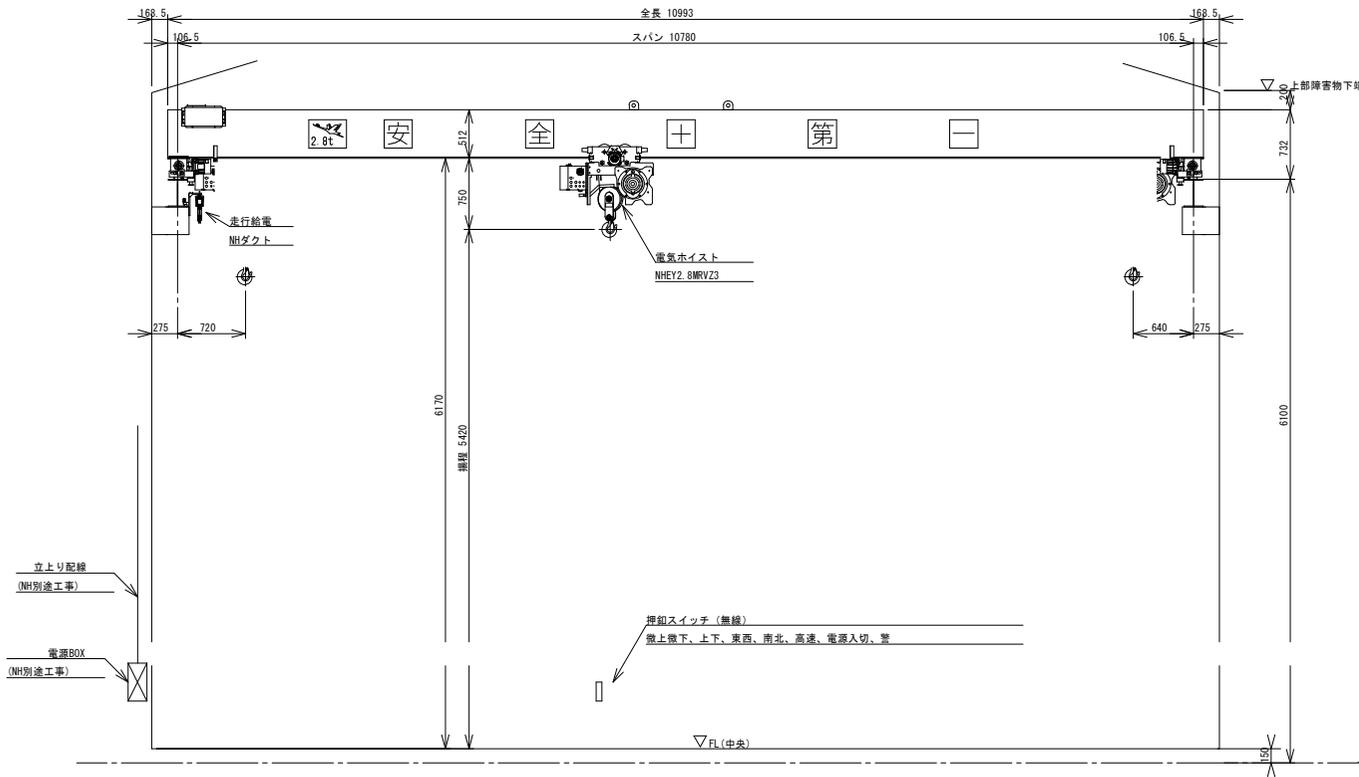


徳島県企業局	工事名 R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-024	1級建築士登録 株式会社 川建設 第126265号 川端社一郎
	図面名 建具配置図、建具表	縮尺 1/100	

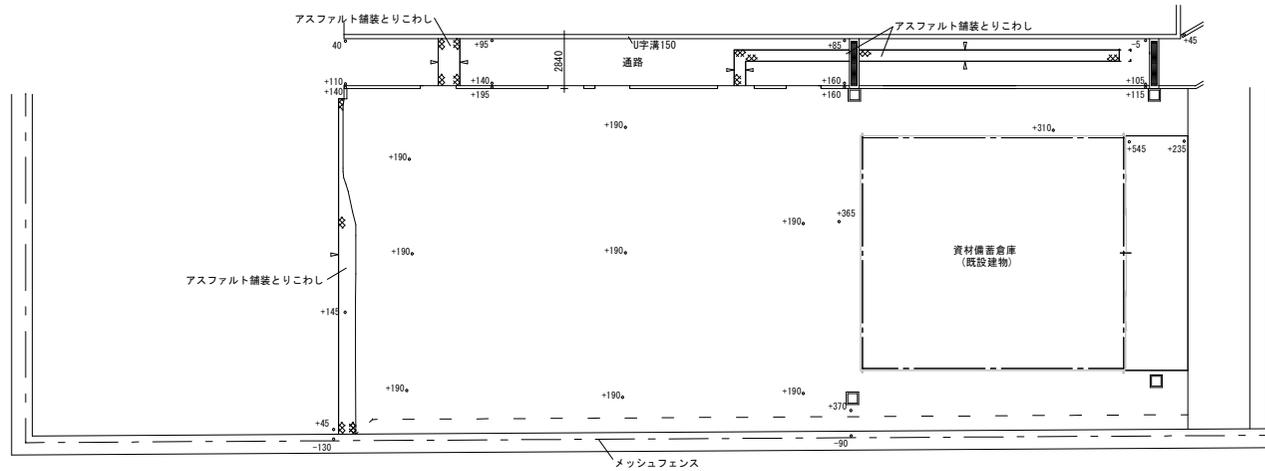


仕様					
定格荷重	2.800 t				
吊上荷重	2.818 t				
スパン	10.780 m				
操程	5.570 m				
	速度	電動機		定格	ブレーキ
	(m/s)	(m/min)	出力(kW) × 台数	種数 (%ED)	
	巻上	0.120	7.2	4 × 1	
横行	0.400	24	0.28 × 1	4 25	電磁ブレーキ
走行	0.400	24	0.4 × 2	4 25	電磁ブレーキ
走行レール	H-294 × 200 × 8 × 12				
巻上用ワイヤロープ	6 × Fi (29) 8種 φ12 × 2				
操作方式	無線押印操作				
電源	三相交流 200V 60Hz				
塗装色	T15-60V (5YR6/12 オレンジ)				
備考	1. 巻上・横行・走行はインバータ制御方				
	2. 走行距離 17 m				
	3.				
	4.				

自重	
クレーン	1081 kg
ホイスト	300 kg
サドル	167 kg
合計	1548 kg

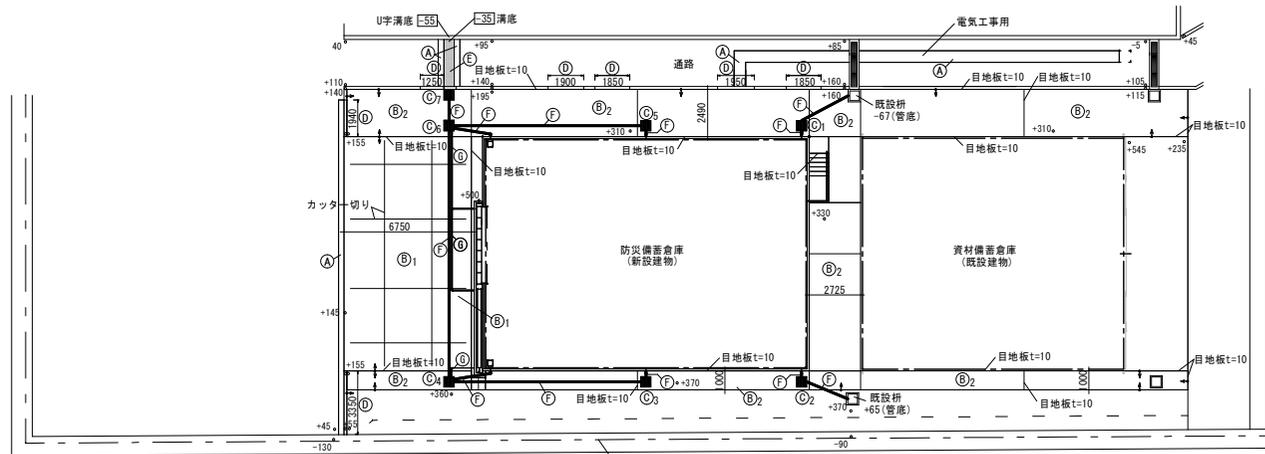


徳島県企業局	工事名 R1企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	図面番号 B-025	株式会社 川建設 1級建築士登録 第126265号 川端社一館
	図面名 走行クレーン詳細図(参考図)	縮尺 1/40	



外構現況図・撤去図

☒ アスファルト舗装カッター切り



外構平面図

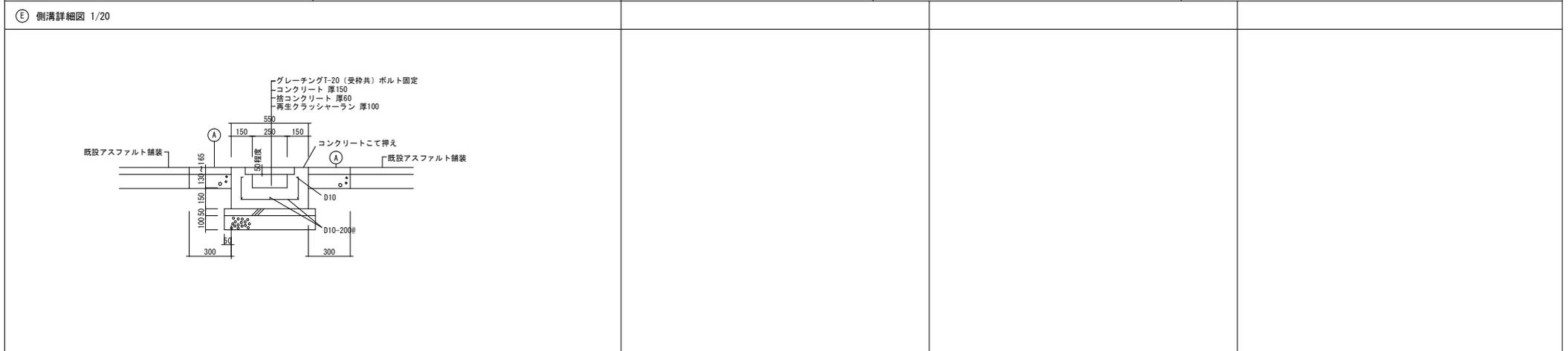
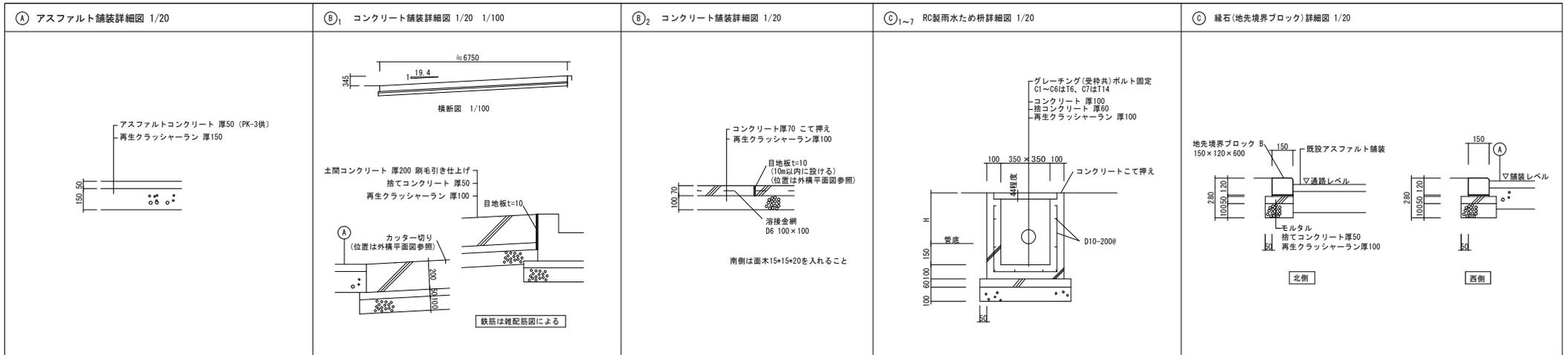
NGI=KGW-400とする

新設外構施設

記号	名称
Ⓐ	アスファルト舗装
Ⓑ1	コンクリート舗装 (厚200)
Ⓑ2	コンクリート舗装 (厚70)
Ⓒ1~7	RC製雨水ため枡 350×350
Ⓓ	緑石 (地先境界ブロック)
Ⓔ	側溝
Ⓕ	排水管VP100
Ⓖ	排水管VP30

コンクリート舗装Ⓑ1及びⒷ2は、取合う建物とは、目地板t=10にて縁を切ること。

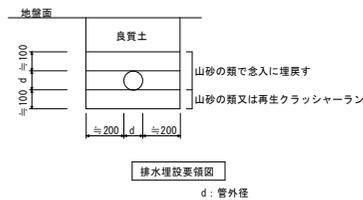
徳島県企業局	工事名	図面番号	1級建築士登録 株式会社 川建設 第126265号 川端社一節
	R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	B-026	
	図面名	縮尺	
	外構現況図・撤去図、外構平面図	1/200	



雨水系統(ため柵)リスト

記号	名称	寸法	上部蓋	周囲地盤高	設計管底	H
Ⓒ ₁	RC製雨水ため柵	350×350	グレーチング蓋	+310	-50	360
Ⓒ ₂	"	"	"	+370	+100	270
Ⓒ ₃	"	"	"	+370	+100	270
Ⓒ ₄	"	"	"	+360	+50	310
Ⓒ ₅	"	"	"	+310	+35	275
Ⓒ ₆	"	"	"	+310	-15	325
Ⓒ ₇	"	"	"	+195	-25	220

レベルはBからとしている。
管底については、参考値とする。
施工に際しては施工図作成のうえ、据付位置を決定し、据付面のレベル測定により、修正を行うこと。



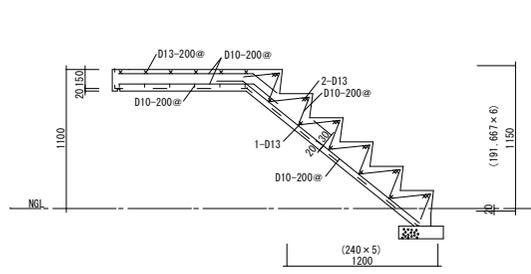
スラブリスト

記号	スラブ厚	位置	主筋	配力筋	備考
FS1	300	上端筋	D13 D10交互-150@	D13 D10交互-300@	モテアミ
		下端筋	D13-150@	D13 D10交互-300@	

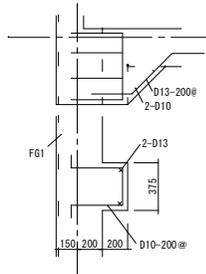


地中梁リスト 1/30

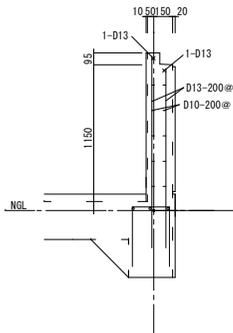
記号	F61	F62	F63	F64	F65	F66
寸法 (B×D)	350×600	550×800	450×800	400×600	400×600	350×600
		両端 中央	両端 中央	外端 中央 内端	外端 中央 内端	
上端筋	3-D19	5-D19	7-D19	4-D19	5-D19	3-D19
中間筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
下端筋	3-D19	4-D19	4-D19	3-D19	3-D19	6-D19
スターラップ	D10-200@	D13-200@	D13-200@	D10-150@	D10-150@	D10-150@
備考						かぶり厚82とする(配力筋施工)



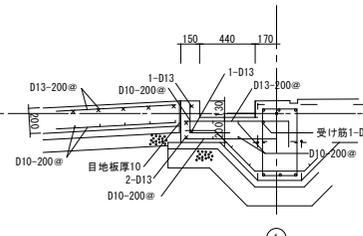
屋外階段配筋図 1/30



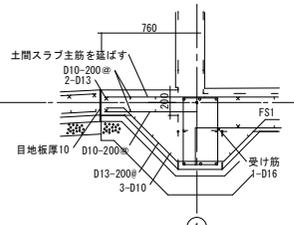
P1部基礎配筋図 1/30 1、5通



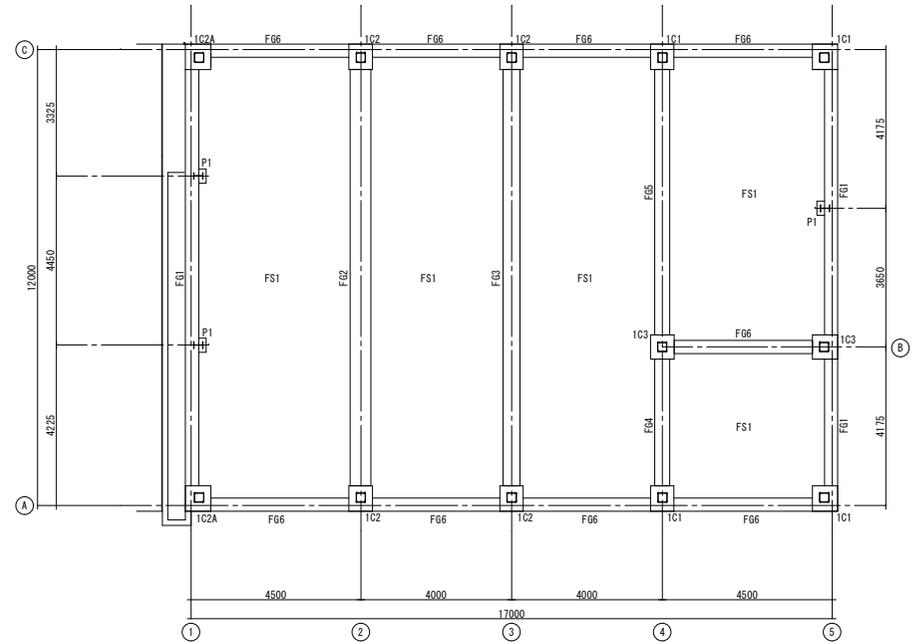
壁強配筋図 1/30



防水膜ビット部配筋図 1/30



1通橋出しスラブ配筋図 1/30



基礎伏図 1/100

徳島県企業局

工事名 R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事

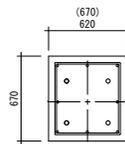
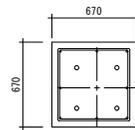
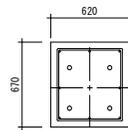
図面名 基礎伏図、基礎・雑配筋図

図面番号 S-001

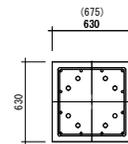
縮尺 1/100 1/30

株式会社 川建設

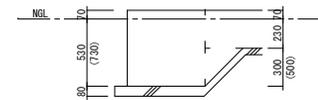
1級建築士登録
第126265号
川端社一郎



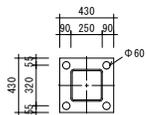
()内は5通



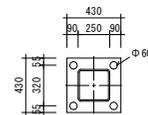
()内は5通



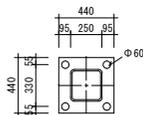
柱と土間スラブ取合い図



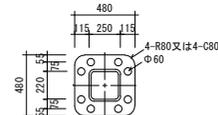
ベースプレート 430×430×36 (SM490A)
アンカーボルト 4-D35 (SD390) L=720



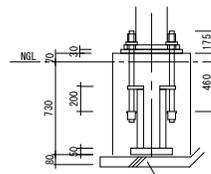
ベースプレート 430×430×36 (SM490A)
アンカーボルト 4-D35 (SD390) L=720



ベースプレート 440×440×40 (SM490A)
アンカーボルト 4-D35 (SD490) L=725

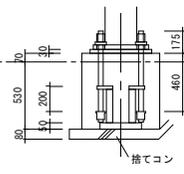


ベースプレート 480×480×36 (SM490A)
アンカーボルト 8-D35 (SD390) L=720



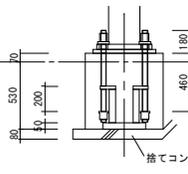
捨てコン
ジャストベース J250-09

1C2



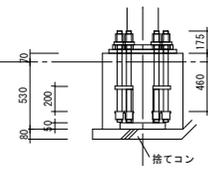
捨てコン
ジャストベース J250-09

1C2A



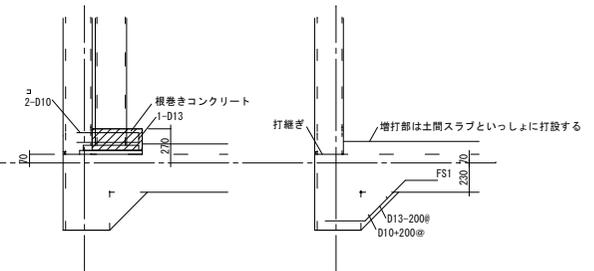
捨てコン
ジャストベース J250-12

1C1



捨てコン
ジャストベース J250-16

1C3



打継ぎ要領図、段差補強配筋図

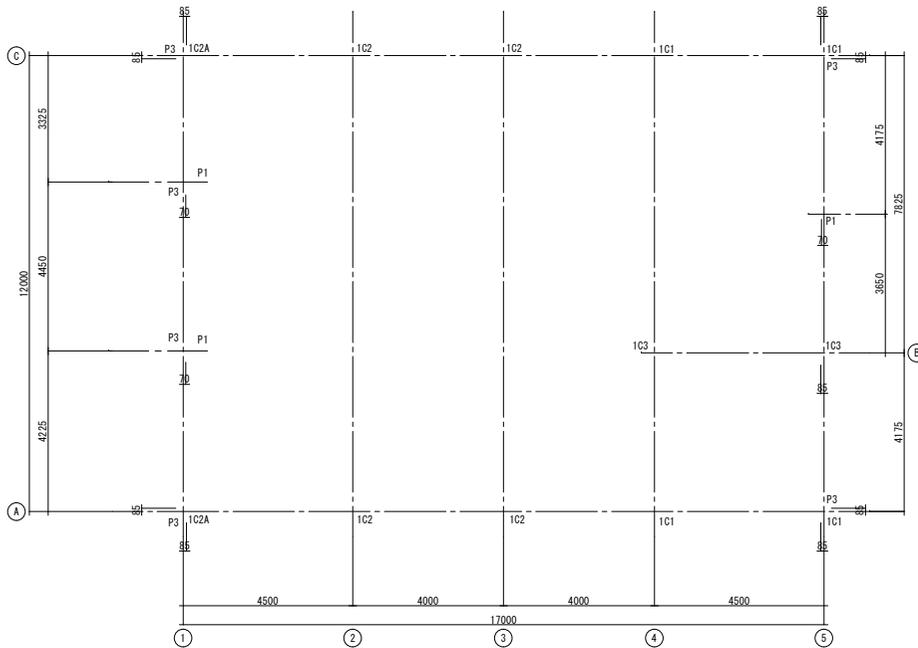
基礎柱リスト

記号	1C2 (2, 3通)	1C2A (1通)	1C1 (4通)	1C1 (5通)	1C3 (4通)	1C3 (5通)
寸法 (B×D)	620×670	670×670	620×670	670×670	630×630	675×630
柱脚	ジャストベース J250-9	ジャストベース J250-9	ジャストベース J250-12	ジャストベース J250-12	ジャストベース J250-16	ジャストベース J250-16
主筋	8-D16	8-D16	8-D16	8-D16	12-D19	12-D19
フープ	D13-150@	D13-150@	D13-150@	D13-150@	D13-160@	D13-150@
備考						

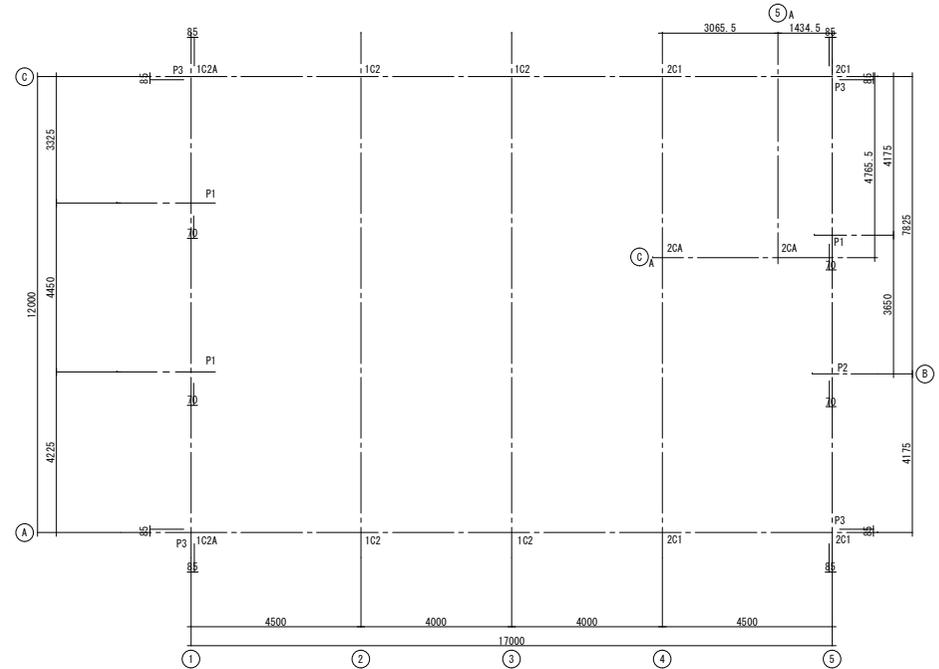
鉄骨部材リスト

1C1	柱	□-250×250×12	BCR295	ジャストベースJ250-12	P1	間柱	H-244×175×7×11	SS400
1C2 1C2A	柱	□-250×250×9	BCR295	ジャストベースJ250-9	P2	間柱	H-194×150×6×9	SS400
1C3	柱	□-250×250×16	BCR295	ジャストベースJ250-16				
2C1	柱	□-250×250×9	BCR295		P3	コーナー柱	□-100×100×2.3	STKR400
2CA	柱	□-150×150×6	STKR400					
G35	大梁	H-350×175×7×11	SS400					
G29	大梁	H-294×200×8×12	SS400					
G30	大梁	H-300×150×6.5×9	SS400		□A	□-100×100×2.3(2連続スパン)	STKR400	
G19	大梁	H-194×150×6×9	SS400		□B	□-100×100×2.3(1スパン)	STKR400	
G61 G62 G63 G64	持出し梁	H-294×200×8×12	SS400		□C	□-100×100×3.2(1スパン)	STKR400	
CG	クレーンサドル受け梁	H-294×200×8×12	SS400					
WG1	大梁	H-200×100×5.5×8	SS400					
B30	小梁	H-300×150×6.5×9	SS400			2階床面デッキプレート 余成スラブデッキプレート t=1.2、H=50 めっきZ-12 タテヨコ棋 010-200		
B25	小梁	H-250×125×6×9	SS400			折戻受け材 C-100×50×20×3.2		
B20 NB	小梁	H-200×100×5.5×8	SS400			網線 ヨコ C-100×50×20×2.3 606#(特記なき場合)		
T	ツナギ梁	[-150×75×6.5×10	SS400			小屋面ブレース M16		

※ 窓廻りタテはC-100×50×20×2.3とする。
ヨコ網線は2連続スパンを原則とする。
□A~Cは窓廻り上下及びシャッター上部、アルミ庇受け材



1階柱状図



2階柱状図

徳島県企業局

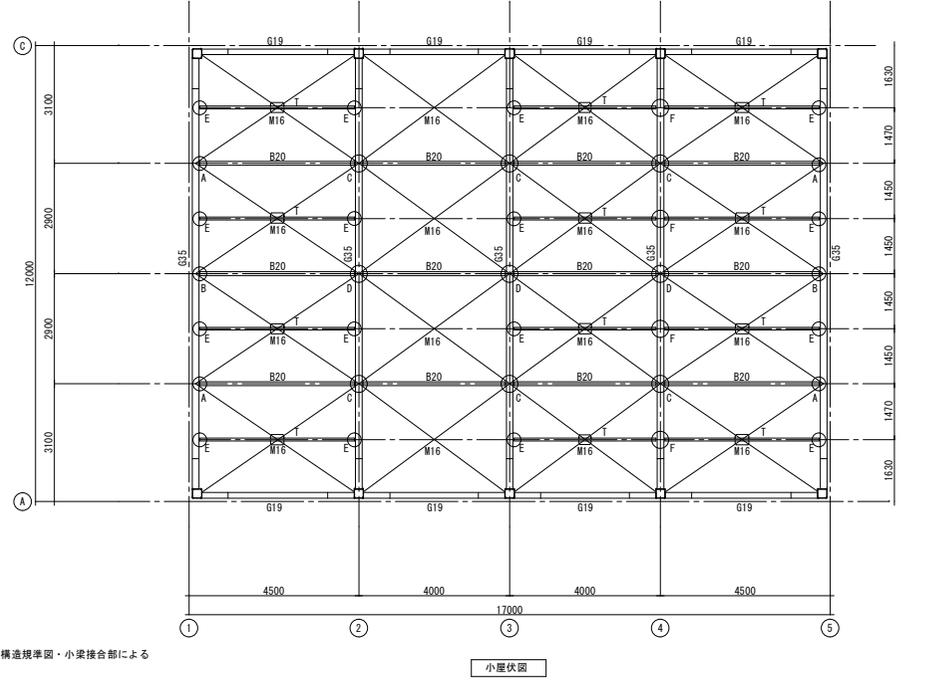
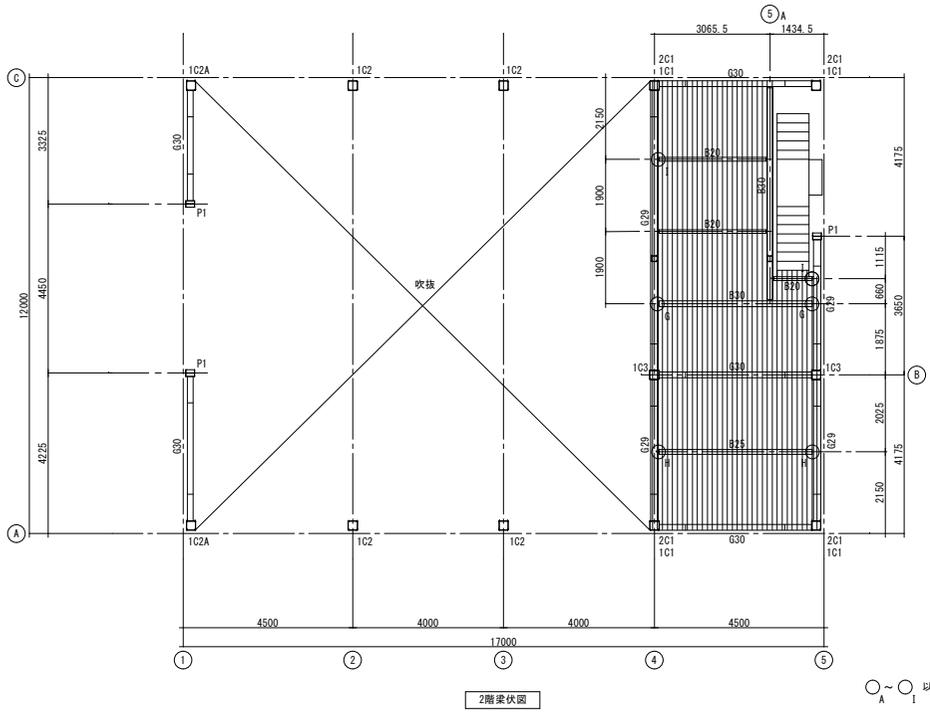
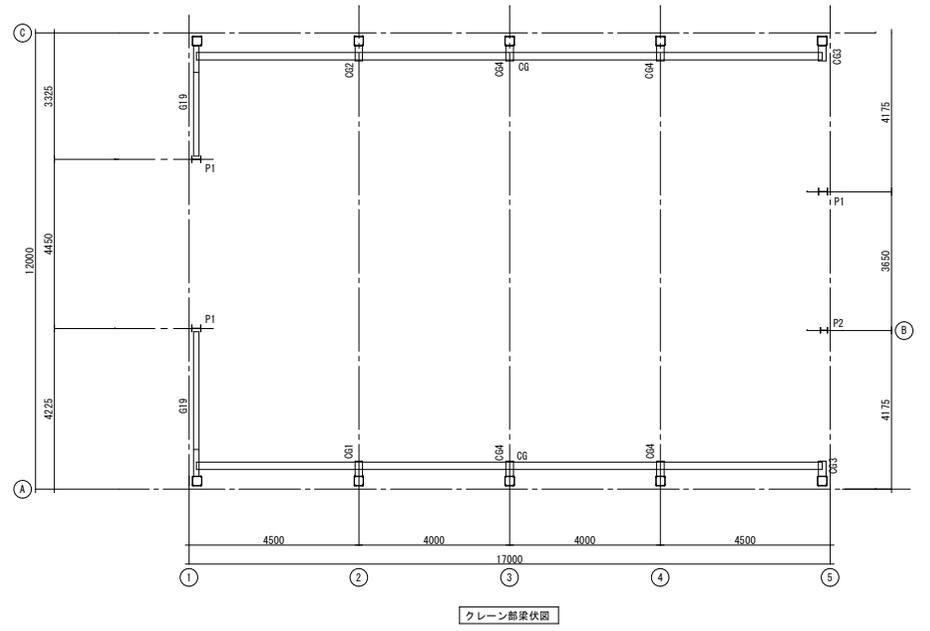
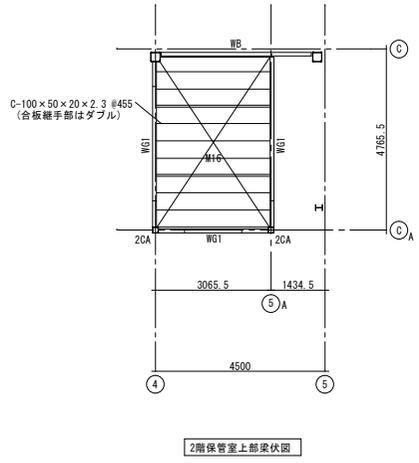
工事名
R1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事

図面番号
S-003

株式会社 川建設計
1級建築士登録
第126265号
川端社一郎

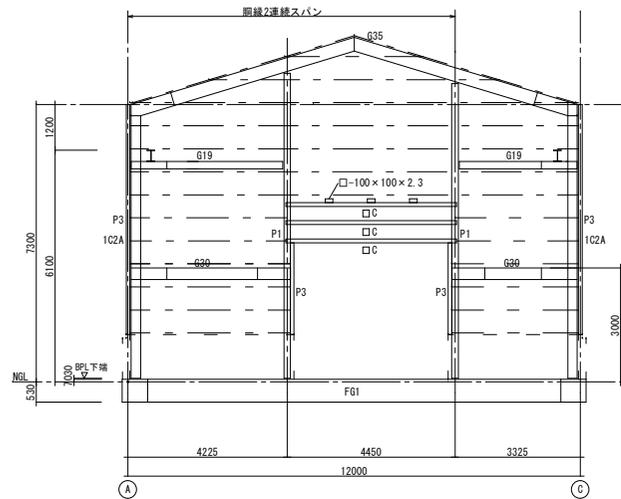
図面名
1・2階柱状図、鉄骨部材リスト

縮尺
1/100

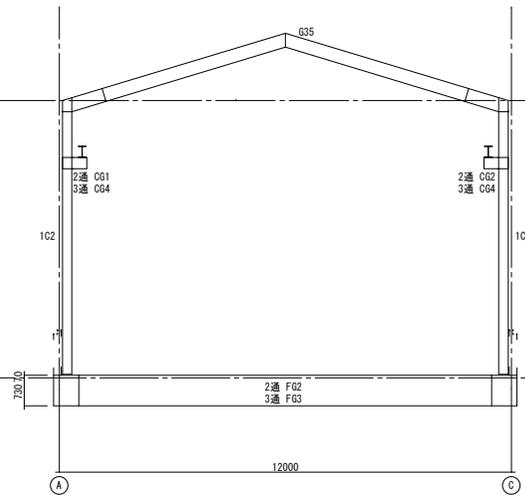


○_A ~ ○_I 以外は鉄骨構造規準図・小梁接合部による

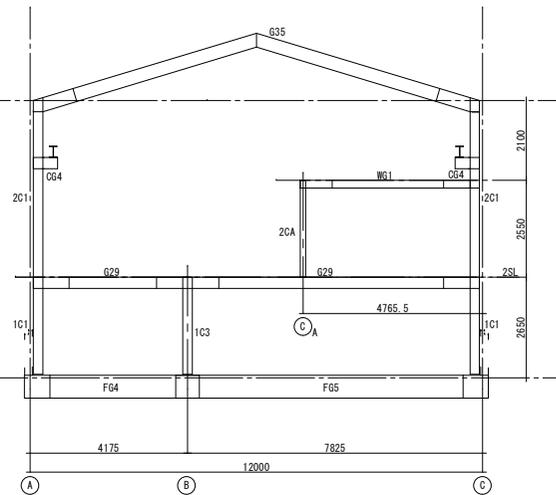
徳島県企業局	工事名	図面番号	株式会社 川建設計 1級建築士登録 第126265号 川端社一郎
	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	S-004	
	図面名	縮尺	
	2階梁伏図、小屋伏図、その他梁伏図	1/100	



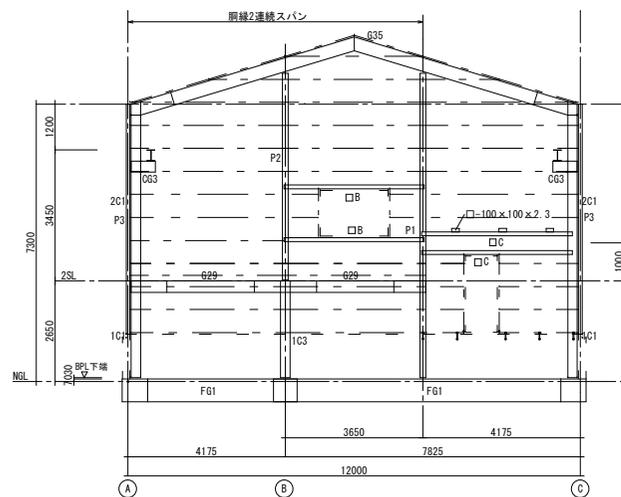
1透軸組図



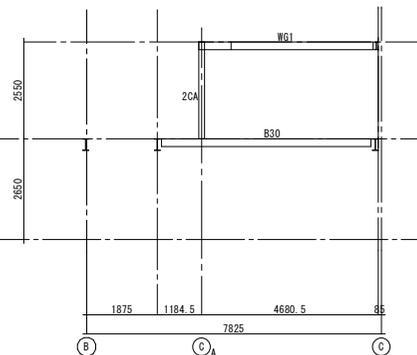
2.3透軸組図



4透軸組図



5透軸組図



5A透軸組図

■ アンカーボルト M-12 L=180
(P柱取標準図による)

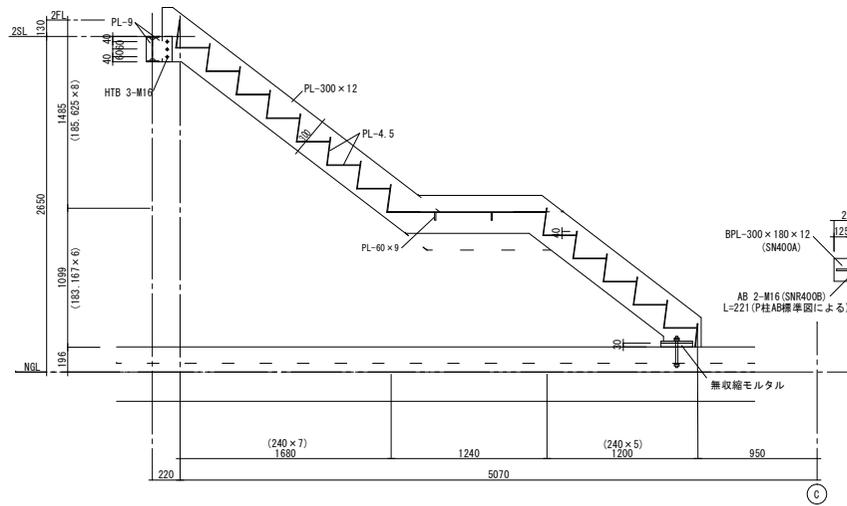
徳島県企業局

工事名 R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事
図面名 軸組図 1

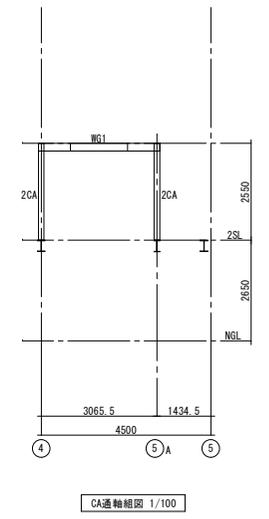
図面番号 S-005
縮尺 1/100

株式会社 川建設

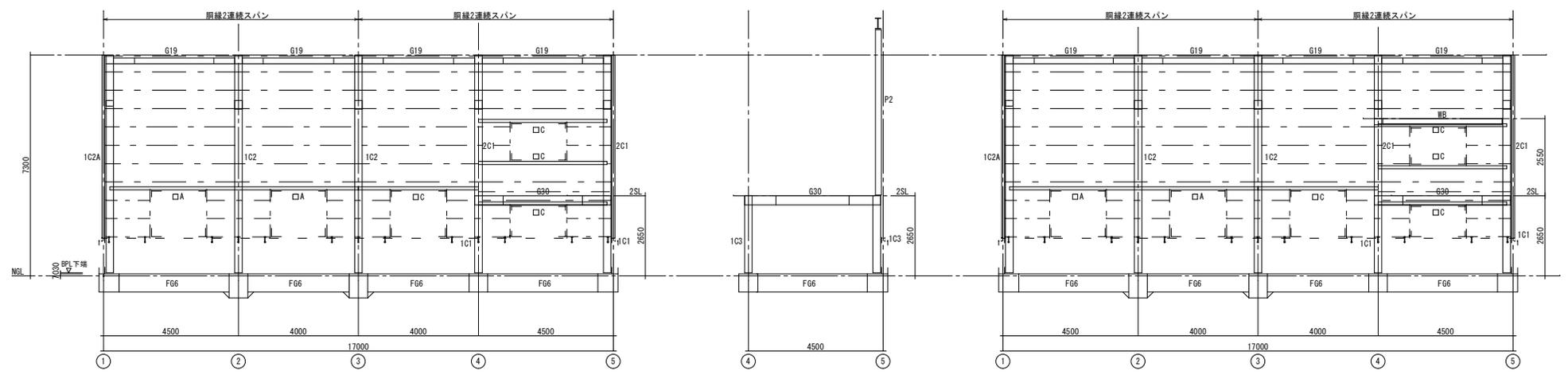
1級建築士登録
第126265号
川端社一 部



階段架構図 1/30



CA通軸組図 1/100



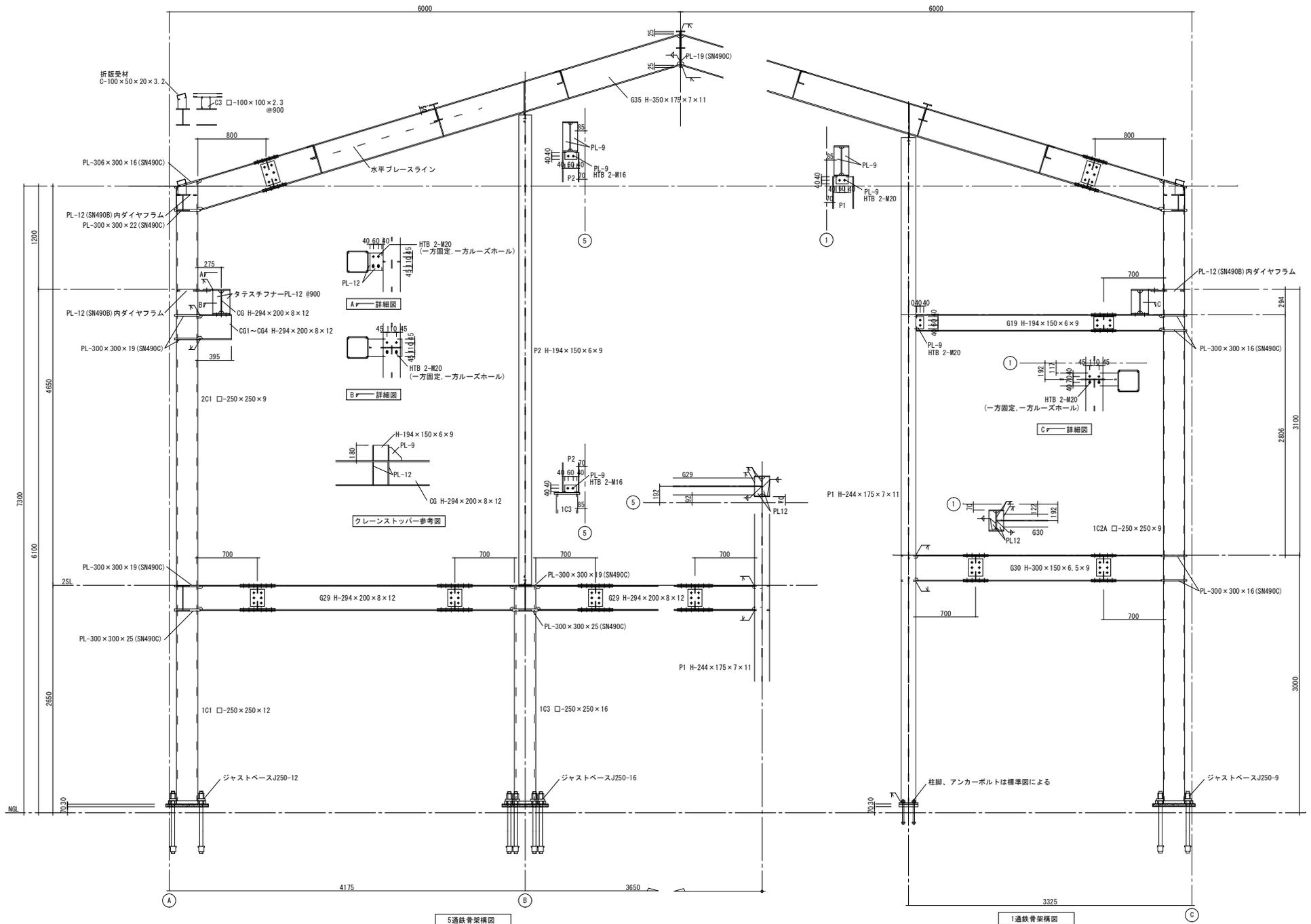
A通軸組図 1/100

B通軸組図 1/100

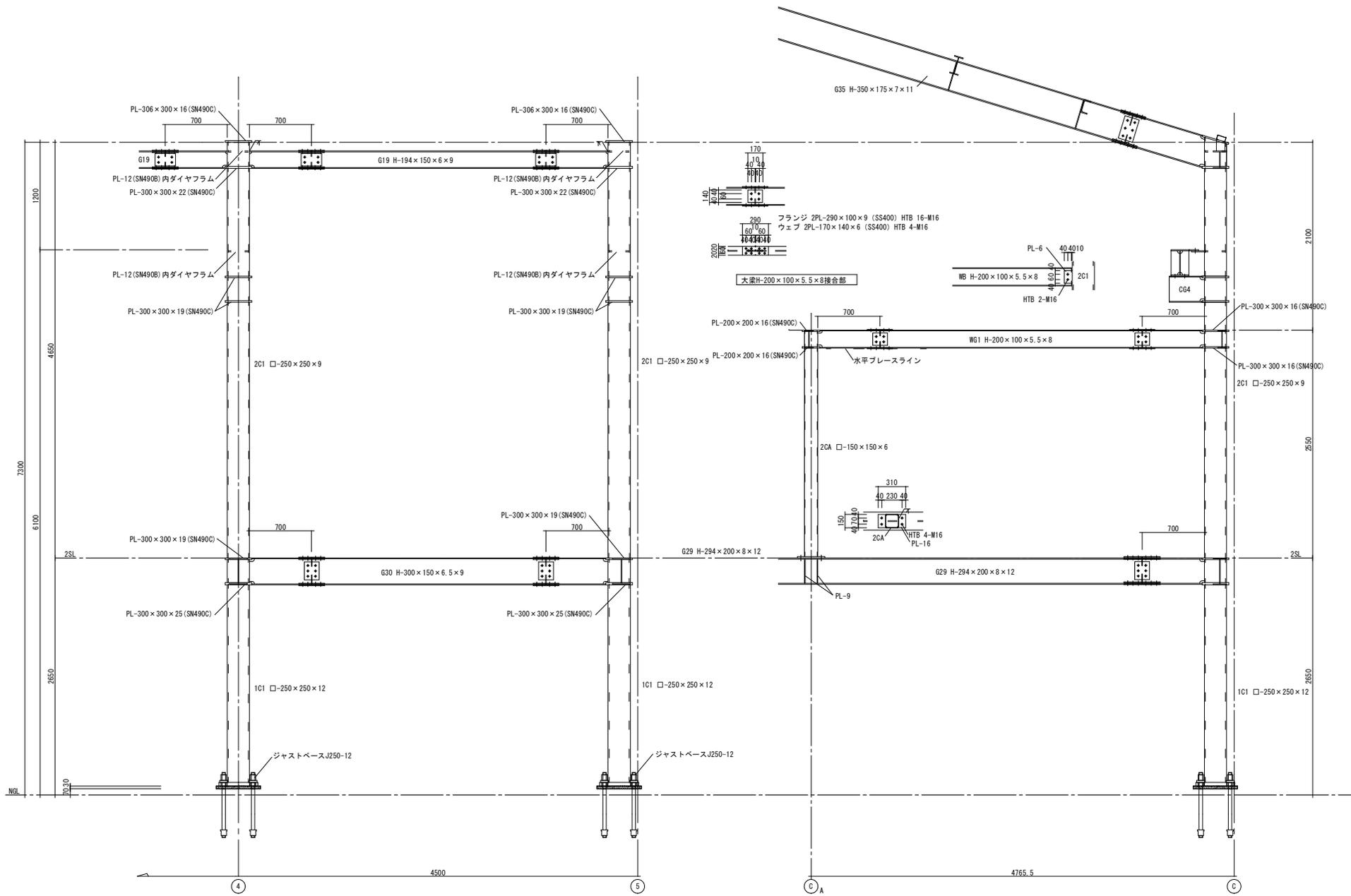
C通軸組図 1/100

■ アンカーボルト M-12 L=180
(P柱AB標準図による)

徳島県企業局	工事名	図面番号	株式会社 川建設 1級建築士登録 第126265号 川建設一部
	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	S-006	
	図面名	縮尺	
	軸組図 2、階段架構図	1/100 1/30	



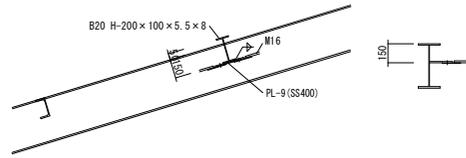
徳島県企業局	工事名	図面番号	1級建築士登録 第126265号 川端社 川端社 川端社
	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	S-007	
	図面名	縮尺	
	鉄骨架構図 1	1/30	



A通鉄骨架構図

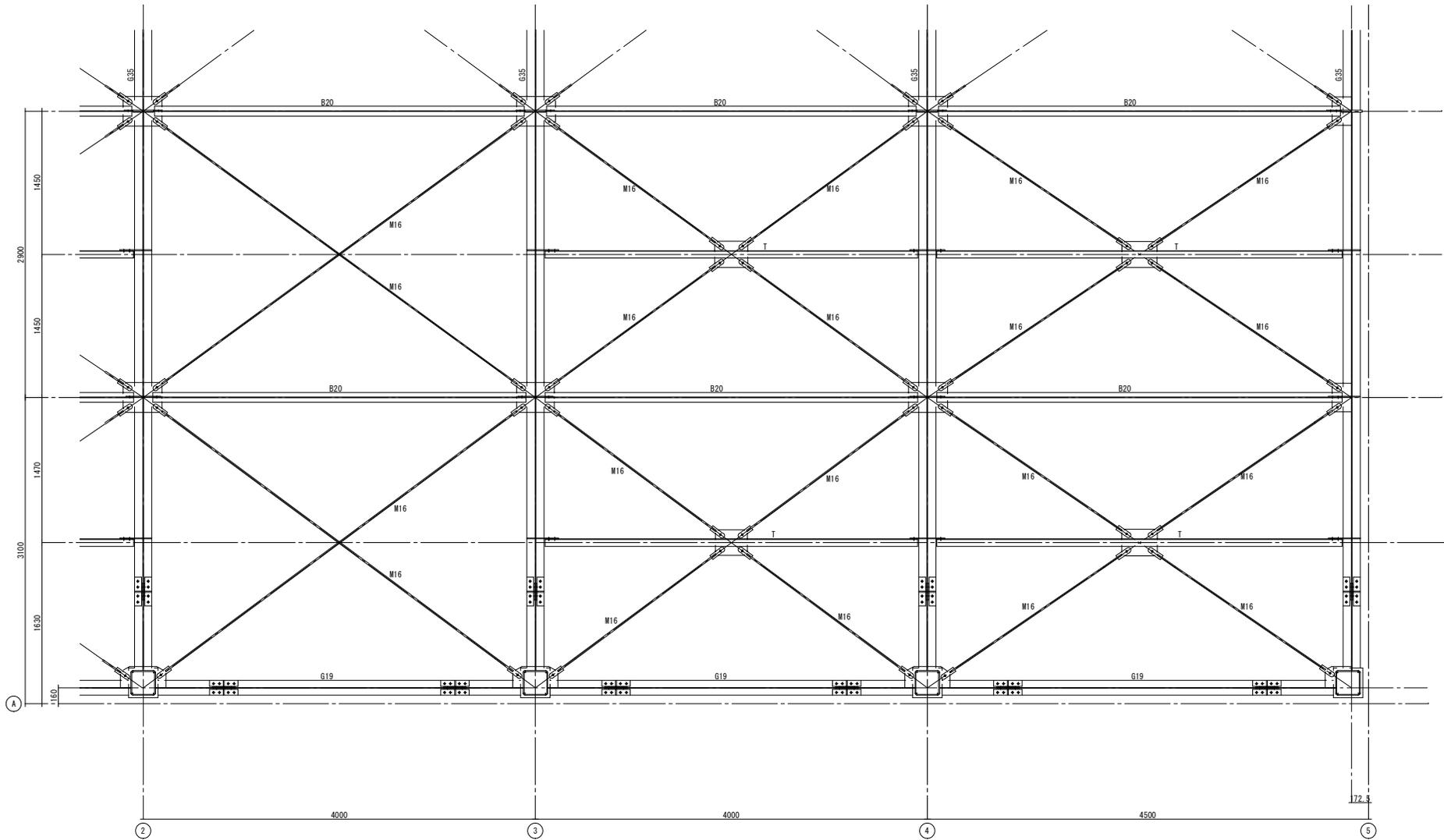
4通鉄骨架構図

徳島県企業局	工事名	図面番号	1級建築士登録 川建設 川端社 川端社一節
	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	S-008	
	図面名	縮尺	
	鉄骨架構図 2	1/30	



R階小屋面プレート詳細図

ボルト、GPLの仕様は標準図7-71による



徳島県企業局	工事名	図面番号	株式会社 川建設 1級建築士登録 第126265号 川端社一節
	R 1 企総管 吉野川北岸工業用水道 防災備蓄倉庫新築工事	S-010	
	図面名	縮尺	
	鉄骨架構図 4	1/30	

ジャストベース (J E I型) 柱脚工法設計施工標準 (角形鋼管仕様)

(財) 日本建築センターBCJ評定-STO153-05 (平成23年8月19日付)

適用条件

- 柱材: 角形鋼管 (F値 235N/mm² - STKR400, BP235, SH400B-C (F値 295N/mm²) - BCR295 (F値 325N/mm²) - STKR490, BP235, SH490B-C
- 基礎コンクリート: 普通コンクリート (21・24N/mm²) 以上
- 鉄筋: 異形鉄筋 SD295A (D10~D16) SD45 (D19~D25)

設計

- 柱脚の選定: 別冊「ジャストベースカタログ」により設計者が選定する
- 柱脚の溶接: 別冊「工事製作管理要領書」により鉄骨工場にて溶接施工を行う。

資料番号: J B (J E I) - 0 1 - 0 5

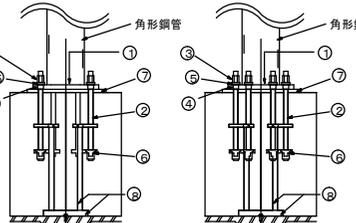
施工

- 現場施工: 別冊「ジャストベース施工ガイド」によりジャストベース認定施工業者が行う。

コトブキ技研工業株式会社
大阪 TEL 06-6303-3366 FAX 06-6303-3100
広島 TEL 0823-70-0721 FAX 0823-70-0722

1. 柱脚構成部材及び基礎廻り標準図

1.1 構成部材



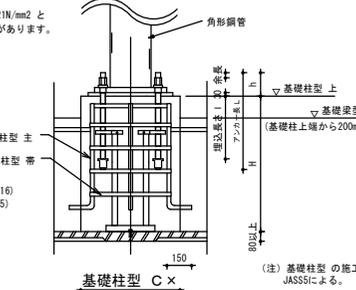
＜4本アンカーボルトタイプ＞

- ① ベースプレート
- ② アンカーボルト
- ③ ロックナット及び緩み止めクサビ
- ④ ジャストリング
- ⑤ 産金
- ⑥ 定着ナット及び緩み止めクサビ
- ⑦ 無収縮モルタル
- ⑧ フレーム部材 (テンプレート含む)

注: 12本アンカーボルトタイプ図は省

1.2 基礎廻りの標準図

※設計基準強度が21N/mm²と24N/mm²の仕様があります。



(注) 基礎柱型の施工 JASSIによる。

2. アンカーボルト・ロックナット・定着ナット・産金・ジャストリング

2.1 アンカーボルト (材質: SD390・SD490)

呼び	D	L	d1	l1
D29 (SD390)	32.4	660	—	20
D35 (SD390)	35.7	720	—	20
D38 (SD390)	35.7	725	—	20
D38 (SD490)	42.7	785	—	20
D41 (SD490)	45.2	870, 970	—	20

2.2 ロックナット (材質: S45C 熱処理H)

呼び	B	C	L
D29	43	49.7	56
D35	53	61.2	64
D38	57	65.8	64
D41	64	73.9	64

2.3 定着ナット (材質: S45C又はFCD450-10)

呼び	A1	A2	B	H	c	d	R
D29	62	49.7	10	56	34.3	28.9	5
D35	74	61.2	10	64	41.2	35.0	5
D38	82	65.8	10	64	44.9	38.1	8
D41	88	73.9	10	72	48.2	41.2	7

2.4 産金 (材質: SS400)

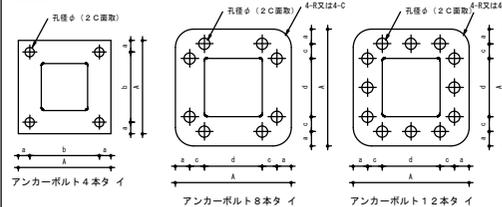
呼び	W	P1	L	φD
D29	14	27	22	34
D35	28	44	22	41
D38	34	47	25	45
D41	100	50	28	45

2.5 ジャストリング (材質: S25C)

呼び	外リング	内リング	H
D29	49.0	41.3	40.6
D35	59.0	49.6	48.8
D38	64.0	54.0	53.3
D41	69.0	58.2	57.5

3. ベースプレート

3.1 ベースプレート (材質: SM490A)



ジャストベース号	タイ	t	A	a	b	c	d	φ	R又はC
J150-09	4本	28	300	45	210	—	—	50	—
J175-09	4本	28	325	45	235	—	—	50	—
J200-09	4本	32	350	45	260	—	—	50	—
J200-12	4本	32	380	55	270	—	—	60	—
J250-09	4本	36	430	55	320	—	—	60	—
J250-12	4本	40	440	55	330	—	—	60	—
J250-16	8本	36	480	55	—	75	220	60	80
J300-09	8本	32	490	45	—	65	270	50	50
J300-12	8本	36	530	55	—	75	270	60	80
J300-16	8本	40	540	55	—	75	280	60	80
J300-19	8本	40	560	55	—	75	300	60	80
J350-16	8本	45	600	60	—	85	310	65	80
J350-19	8本	55	630	60	—	95	340	65	80
J350-22	8本	55	630	65	—	95	330	70	80
J400-12	8本	45	630	55	—	75	370	60	80
J400-16	8本	55	690	60	—	85	400	65	80
J400-19	8本	60	690	65	—	85	390	70	80
J400-22	12本	60	700	60	—	85	410	65	80
J450-16	12本	50	700	60	—	85	410	65	80
J450-19	12本	55	720	65	—	85	420	70	80
J450-22	12本	60	730	65	—	85	430	70	80
J500-19	12本	60	750	65	—	95	450	70	80
J500-22	12本	65	840	65	—	95	540	70	80
J550-19	12本	65	880	65	—	95	560	70	80
J550-22	12本	70	950	65	—	95	630	70	80

4. 溶接施工

4.1 溶接

- 角鋼のベースプレートへの溶接は突合せ溶接とする
- 開先条件は J A S S I に準じ下表による。

種別	開先	柱材の溶接		ルート溶接		開先角度		溶接姿勢
		厚さ (mm)	許容値	厚さ (mm)	許容値	α1 (度)	α2 (度)	
基礎工の溶接	突合せ溶接	6以上	7	-2	2	-2	45	F
		9	—	—	—	35	—	H
ガサリ付溶接	突合せ溶接	6以上	6	-2	2	-2	45	F
		7	—	—	—	35	—	H

4.2 溶接部の検査

- 超音波探傷試験とし、合否の判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷基準・同解説」による。

5. 現場施工

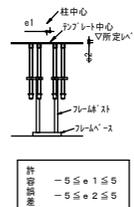
特記以外は元請建設会社の施工とする。

5.1 捨てコンクリート地盤 (元請施工)

- 基礎柱型 下部の捨てコンクリートは厚さ80mm以上とし、上面をコテ平滑に仕上げる。上面レベルのチェックを行う。

5.2 フレーム及びアンカーボルトの設置 (※1)

- ① フレームベース設置: 柱中心線地盤に対し、平面位置を調整する。レベル調整用ポルトでフレームベースを水平にする。
- ② アンカーボルト設置: フレームポスト上部の部材にアンカーボルトにて固定し垂直を確認する。
- ③ テンプレート設置: テンプレートをアンカーボルトに上部からポルトにて固定し、テンプレート中心線を、柱中心線に調整後、フレームベースをホールインアンカーで固定する。
- ④ 定着ナット緩み止め措置: 定着ナットをアンカーボルト下部位置に取り付け、アンカーボルトと定着ナットの隙間に鋼製クサビを打ち込む。



5.3 基礎柱型 配筋及びコンクリート打設 (元請施工)

- ジャストリングを全数設置し、レンチ等でロックナットを本締めする。トルク値は3.0ON・mとする。

5.4 鉄骨柱の挿入 (元請施工)

- 鋼製クサビをロックナットとアンカーボルトの隙間に全数セットし、打ち込む。

5.5 ジャストリング設置及びロックナット本締め (元請施工)

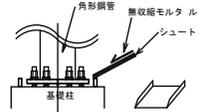
- ジャストリングを全数設置し、レンチ等でロックナットを本締めする。トルク値は3.0ON・mとする。

5.6 緩み止めクサビの設置 (元請施工)

- 鋼製クサビをロックナットとアンカーボルトの隙間に全数セットし、打ち込む。

5.7 無収縮モルタル注

- ① 無収縮モルタル用型枠施工 (元請施工)
- ② 基礎コンクリート清掃・水洗いの後、無収縮モルタルをシュートによりより方から注入する。(※1)



※1: 現場施工及び施工管理は、ジャストベース施工技術委員会が認定した有資格者が行う。

ジャストベース (J E I型) 柱脚工法 (角形鋼管)	適用 (O印)	ジャストベース号	サイズ	通用角形鋼管 (該当するF値 O印)			柱脚構成部材			RC基礎柱型 (下記の寸法・配筋以上とする)			柱脚回転剛性		備考		
				F=235N/mm ²	F=295N/mm ²	F=325N/mm ²	アンカーボルト	ベースプレート	産金	寸法 (mm)	主筋	設計基準強度 (N/mm ²)	kN・m/rad				
J150-09	O	150×150	6・9	6・8・9・1・2	—	—	4-029×660	SD490	165	28×300×300	22×74	460×460	550	8-D10	D10 φ150	21	11,000
J175-09	O	175×175	6・9	6・8・9・1・2	—	—	4-029×660	SD490	165	28×325×325	22×74	480×480	550	8-D13	D10 φ150	21	14,700
J200-09	O	200×200	6・8・9・1・2	6・8・9	—	—	4-029×660	SD490	165	32×350×350	22×74	500×500	600	8-D13	D10 φ150	21	19,800
J200-12	O	200×200	6・8・9・1・2	6・8・9・1・2	—	—	4-035×720	SD390	175	32×350×350	22×88	540×540	600	8-D16	D10 φ150	21	27,800
J250-09	O	250×250	6・8・9	6・8・9	—	—	4-035×720	SD390	175	36×430×430	22×88	600×620	600	8-D16	D13 φ150	21	43,800
J250-12	O	250×250	6・8・9・1・2	6・8・9・1・2	—	—	4-035×725	SD490	165	40×440×440	22×88	620×620	600	8-D16	D13 φ150	21	47,700
J250-16	O	250×250	6・8・9・1・2・14・16	6・8・9・1・2・14・16	—	—	8-035×720	SD390	175	38×480×480	22×88	630×630	600	12-D19	D13 φ150	21	61,600
J300-09	O	300×300	6・8・9・1・2	6・8・9	—	—	8-029×660	SD390	175	36×480×480	22×74	680×680	600	8-D16	D13 φ150	21	64,700
J300-12	O	300×300	6・8・9・1・2・14・16・19	6・8・9・1・2	—	—	8-035×720	SD390	175	38×530×530	22×88	700×700	600	8-D19	D13 φ150	21	89,600
J300-16	O	300×300	6・8・9・1・2・14・16・19	6・8・9・1・2・14・16	—	—	8-035×720	SD390	175	45×540×540	22×88	730×730	600	8-D23	D13 φ150	21	96,500
J300-19	O	300×300	6・8・9・1・2・14・16・19	6・8・9・1・2・14・16・19	—	—	8-035×725	SD490	165	50×540×540	22×88	730×730	600	12-D22	D13 φ150	21	102,000
J350-12	O	350×350	9・1・2・14・16・19	9	—	—	8-035×720	SD390	165	40×580×580	22×88	800×800	700	12-D22	D13 φ150	21	125,000
J350-16	O	350×350	9・1・2・14・16・19・22	9・1・2・14・16	—	—	8-038×785	SD490	165	45×600×600	25×94	800×800	750	12-D25	D16 φ100	21	149,000
J350-19	O	350×350	9・1・2・14・16・19・22	9・1・2・14・16・19	—	—	8-038×785	SD490	165	55×630×630	25×94	800×800	750	12-D25	D16 φ100	21	165,000
J370-22	O	370×370	9・1・2・14・16・19・22	9・1・2・14・16・19・22	—	—	8-041×870	SD490	165	55×630×630	28×100	800×800	800	12-D25	D16 φ100	21	170,000
J400-12	O	400×400	9・1・2	9	—	—	8-035×725	SD490	165	45×630×630	22×88	850×850	800	12-D22	D16 φ100	21	177,000
J400-16	O	400×400	9・1・2・14・16・19	9・1・2・14・16	—	—	8-038×785	SD490	165	55×690×690	25×94	870×870	800	12-D25	D16 φ100	21	218,000
J400-19	O	400×400	9・1・2・14・16・19・22・25	9・1・2・14・16・19	—	—	8-041×870	SD490	165	60×690×690	28×100						

